

平成 30 年度

邦楽地域活性化事業  
報告書



一般財団法人 地域創造  
Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

---

## ■はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成や、公立文化施設の活性化を図るための各種事業を実施しています。

これらの事業の一環として地域創造では、平成21年度のモデル事業実施を経て、平成22年度より「邦楽地域活性化事業」に取り組んでいます。

邦楽地域活性化事業は、地域創造がこれまで取り組んできた公共ホールを拠点とした地域交流プログラムに関するノウハウと、日本の伝統文化への取り組みを踏まえ、地域創造と都道府県や政令指定都市の中核ホールが共同で、研修会や域内市町村等でのアウトリーチ、コンサートなどの事業を実施し、地域に邦楽の特色を活かしたアウトリーチの手法および事業展開のノウハウを蓄積することを目指すものです。

この報告書には、公益財団法人ひろしま文化振興財団及び公益財団法人甘日市市芸術文化振興事業団、東広島芸術文化ホール指定管理者、公益財団法人ふくやま芸術文化振興財団との共催により実施された平成30年度邦楽地域活性化事業の内容を取りまとめ、主催団体および市町村ホールの担当者による成果や反省点・課題等についての報告をケーススタディとして、また、例年掲載しているアウトリーチ進行シートやコーディネーターによるレポート等も掲載しています。

全国の地方公共団体ならびに公共ホールのみなさまにおかれましては、ぜひ邦楽に関する地域交流プログラムも含めた自主事業にお取り組みいただき、本報告書をご活用いただければ幸いです。

一般財団法人地域創造

---



---

# 目 次

I. 邦楽地域活性化事業概要	5
1. 事業の仕組み	6
2. 事業の流れ	7
3. これまでの経緯	8
II. 平成30年度 事業記録	9
1. 事業体制	10
2. 演奏家プロフィール	11
3. 全体スケジュール	12
4. 全体研修会	13
5. 現地見	14
6. 手法開発研修会	14
7. 地域交流プログラム	16
8. 総括公演プログラム	17
II-2. 平成30年度 アウトリーチ進行シート	
進行シート掲載にあたって	兄玉 真 19
III. 平成30年度 事業報告	31
1. 主催団体報告	
担当者	高井 晴美（公益財団法人ひろしま文化振興財団）32
2. 地域交流プログラム報告	
① 廿日市市	
コーディネーター	兄玉 真 34
サブコーディネーター	多田 彩子 35
公益財団法人廿日市市芸術文化振興事業団	田雁 尚美 36
演奏家代表	森田 博代 38
プログラムの様子	39
② 東広島市	
コーディネーター	谷垣内 和子 40
東広島芸術文化ホール	蓮田 竜太郎 42
演奏家代表	喜羽 美帆 43
プログラムの様子	44
③ 福山市	
コーディネーター	米澤 浩 45
公益財団法人ふくやま芸術文化振興財団	藤井 明生 47
演奏家代表	簗田 弘大 48
プログラムの様子	49
IV. 平成30年度事業資料	51
平成30年度邦楽地域活性化事業 実施要綱	52

---



---

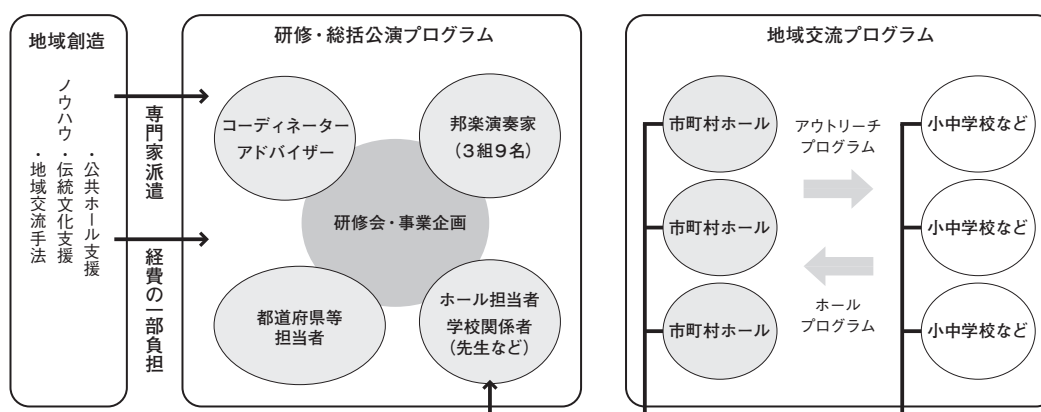
# **I . 邦楽地域活性化事業概要**

## 1 事業の仕組み

都道府県・政令指定都市等と地域創造の共催で、公共ホールを中心に若手邦楽演奏家による各種プログラムを実施します。

実施都道府県内で選ばれた市町村ホールや、政令指定都市内の場合は管内の複数のホールが、それぞれ地元の学校向けに、アウトリーチと呼ばれる1クラス単位の教室での鑑賞型事業や、ホールでのワークショップなどの地域交流プログラムを行います。都道府県・政令指定都市等は、事業の実施に向けて様々な研修会などを開催しながら事業を統括し、最後に全演奏家が出演するコンサートを開催します。

地域創造からは、邦楽演奏家に加え、地域の芸術活動や企画制作に詳しいコーディネーターなどの専門家を派遣し、ノウハウの提供や事業全般のサポートを行います。



### ■事業の目指すもの・期待される効果

- 公共ホールが邦楽事業に関するノウハウを獲得することで、学校等地域からの邦楽に関するニーズに応えられるようになることを目指します。また、都道府県等の公共ホールを核とした市町村立ホールのネットワークづくりや人材育成、邦楽を通じた学校と公共ホールの連携促進につなげます。
- 地域の子どもたちに日本の伝統楽器や邦楽のすばらしさを伝え、同時に、邦楽の演奏家や指導者、教育関係者、ホール職員にアウトリーチをはじめとした地域交流プログラムの手法を獲得してもらうことにより、地域での邦楽への取り組みの幅を広げ、邦楽の継承発展を目指します。

### ■経費負担

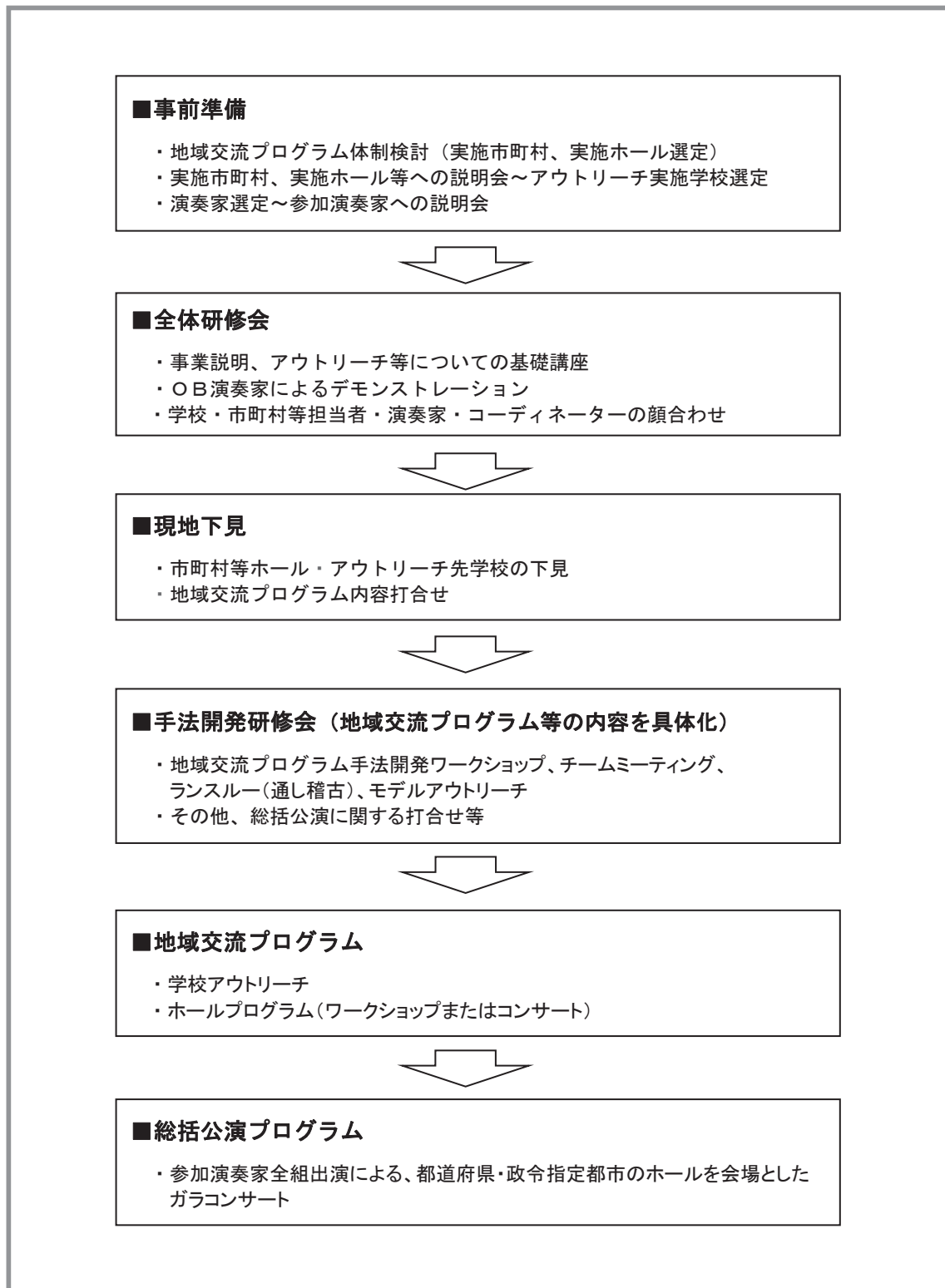
- (1) 地域創造が直接負担する経費
 

事業参加に係る報酬（出演料、謝金等を含む）、現地移動費を除く旅費、楽器運搬費、損害保険料、総括公演プログラムの合同練習に係る経費（会場費等）
- (2) 実施団体からの請求にもとづき、地域創造が負担する経費
  - ① 都道府県・政令指定都市等が支出した研修会、総括公演等実施に係る経費のうち対象とするものにつき、合計450,000円まで
  - ② 市町村等が支出した地域交流プログラム実施に係る経費のうち対象とするものにつき、1団体あたり50,000円まで
- (3) 地方公共団体等が負担する経費
 

上記以外の経費。具体的には、演奏家の現地移動費及び現地での楽器の輸送（宿泊先から学校・ホール間など）に係る経費等は各実施団体の負担となっています。

※ P.52 「平成30年度邦楽地域活性化事業 実施要綱」参照

## 2 事業の流れ





3 これまでの経緯

	実施地域	主催団体	チーフ コーディネーター	アドバイザー	地域交流 プログラム 実施団体	演奏家	コーディネーター
平成21年度 (モデル事業)	島根県	島根県、(財)島根県文化振興財団	児玉真	-	益田市	山野安珠美(箏曲)、市川慎(箏曲)、小池摩美(箏曲)	米澤浩
					雲南市	奥山益勢(箏曲)、佐久間景子(箏曲)、樋口千清代(箏曲)	谷垣内和子
					津和野町	片岡リサ(箏曲)、岡村慎太郎(箏曲)、清野樹盟(尺八)	壱岐達朗
平成22年度	熊本県	熊本県、(財)熊本県立劇場	児玉真	柘屋五司郎	荒尾市	佐藤亜美(箏曲・尺八)、木村麻耶(箏曲)、町田光(箏曲)	米澤浩
					人吉市	菊央雄司(箏曲)、伊藤志野(箏曲)、小林静純(尺八)	山崎篤典
					宇城市	澤村祐司(箏曲)、利根英法(箏曲)、見澤太基(尺八)	谷垣内和子
平成23年度	埼玉県	埼玉県、(公財)埼玉県芸術文化振興財団	児玉真	米澤浩(兼務)	入間市	吉川由里子(箏曲)、佐々井麻矢(箏曲)、平野寿里(箏曲)	山崎篤典
					富士見市	藤井佐和(箏曲)、武田旺山(尺八)、中小路奈都子(箏曲)	米澤浩
					川口市	鈴木真為(箏曲)、千葉暢(箏曲)、樋口千清代(箏曲)	谷垣内和子
平成24年度	千葉県	アートプレックスちば事業体	児玉真	谷垣内和子	中央区	中香里(三味線)、五十川真子(三味線)、河野紫(三味線)	山崎篤典
					若葉区	伊藤麻衣子(箏曲)、木場大輔(胡弓)、麻植理恵子(箏曲)	米澤浩
					美浜区	朝香麻美子(箏曲)、佐々木千香能(箏曲)、小間夕起子(箏曲)	吉田真由美
平成25年度	徳島県	徳島県、(公財)徳島県文化振興財団	児玉真	山崎篤典	海陽町	横山佳世子(箏曲)、鎌田美穂子(箏曲)、平田紀子(箏曲)	米澤浩
					小松島市	岡本慎太郎(箏曲)、山形光(箏曲)、黒田静鏡(尺八)	谷垣内和子
					吉野川市	日吉章吾(箏曲)、光原大樹(箏曲)、田嶋謙一(尺八)	吉田真由美
平成26年度	富山県	(公財)富山県文化振興財団、(公財)高岡市民文化振興事業団、(公財)射水市文化振興財団、(公財)砺波市花と緑と文化の財団	児玉真	伊藤由貴子	砺波市	黒川真里(箏曲)、平田紀子(箏曲)、石田真奈美(箏曲)	本田恵介
					高岡市	花岡操聖(箏曲)、荒井美帆(箏曲)、内藤美和(箏曲)	谷垣内和子
					射水市	吉澤延隆(箏曲)、マクイーン時田深山(箏曲)、中島裕康(箏曲)	米澤浩
平成27年度	実施せず						
平成28年度	島根県	(公財)しまね文化振興財団、(公財)浜田市教育文化振興事業団、(公財)江津市教育文化財団	児玉真	山崎篤典	浜田市	石田真奈美(箏曲)、藤高理恵子(琵琶)、田野村聡(尺八)	米澤浩
					江津市	日原暢子(箏曲)、川村葵山(尺八)、渡部祐子(箏曲)	楠瀬寿賀子
					益田市	樋口千清代(箏曲)、三橋乙勢(箏曲)、森田博代(箏曲)	谷垣内和子
平成29年度	熊本県	(公財)熊本県立劇場、(一財)山鹿市地域振興公社、中央設備ステージ・ラボ共同体、(一社)天草市芸術文化協会	児玉真	本田恵介	山鹿市	本間貴士(箏曲)、多田彩子(箏曲)、薩摩琵琶、澄川武史(横笛)	谷垣内和子
					荒尾市	渡部祐子(箏曲)、本田浩平(津軽三味線)、田辺しおり(尺八)	米澤浩
					天草市	神令(尺八)、田嶋謙一(尺八)、青木琳道(尺八)	楠瀬寿賀子
平成30年度	広島県	(公財)ひろしま文化振興財団、(公財)廿日市市芸術文化振興事業団、東広島芸術文化ホール指定管理者、(公財)ふくやま芸術文化振興財団	児玉真	-	廿日市市	森田博代(箏曲)、山下紗綾(箏曲)、見澤太基(尺八)	児玉真 多田彩子 (サブco.)
					東広島市	喜羽美帆(箏曲)、岡戸朋子(箏曲、胡弓)、小泉なおみ(篠笛)	谷垣内和子
					福山市	箕田弘大(三味線)、都築かどれ(三味線)、新保有生(篠笛、能管)	米澤浩

---

## **Ⅱ. 平成30年度 事業記録**

## 1 事業体制

### ◎主催団体：公益財団法人ひろしま文化振興財団

公益財団法人廿日市市芸術文化振興事業団（はつかいち文化ホールさくらぴあ）、東広島芸術文化ホール指定管理者（東広島芸術文化ホールくらら）、公益財団法人ふくやま芸術文化振興財団（ふくやま芸術文化ホールリーデンローズ）

### ◎共催団体：一般財団法人地域創造

### ◎実施日程：平成30年8月22日～平成31年1月26日

### ◎主催団体の責任者

高井 晴美（公益財団法人ひろしま文化振興財団 事業推進員）

### ◎チーフコーディネーター [地域創造の派遣する専門家]

児玉 真（一般財団法人地域創造プロデューサー）

### ◎コーディネーター [地域創造の派遣する専門家]

児玉 真（一般財団法人地域創造プロデューサー）…廿日市市担当

谷垣内 和子（公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 実演芸術振興部 企画室長）…東広島市担当

米澤 浩（邦楽演奏家、NPO法人日本音楽集団 副代表）…福山市担当

### ◎サブコーディネーター [地域創造の派遣する専門家]

多田 彩子（邦楽演奏家）…廿日市市担当

### ◎演奏家

森田 博代（箏曲）、山下 紗綾（箏曲）、見澤 太基（尺八）…廿日市市担当

喜羽 美帆（箏曲）、岡戸 朋子（箏曲・胡弓）、小泉 なおみ（篠笛）…東広島市担当

箕田 弘大（三味線）、都築 かとれ（三味線）、新保 有生（篠笛・能管）…福山市担当

## ■プログラム一覧

### ◎研修プログラム

実施内容	実施日	会場
全体研修会	8月22日（木）	広島県民文化センター (39名)
手法開発研修会	9月24日（月）～9月27日（木）	広島県民文化センター (25名) 海田町立海田西小学校 (83名)

### ◎地域交流プログラム

実施団体	担当演奏家等	内容	実施日	学校、ホール名	参加者数
廿日市市	森田 博代 山下 紗綾 見澤 太基 <コーディネーター> 児玉 真 <サブコーディネーター> 多田 彩子	アウトリーチ①	10月11日（木）	廿日市市立地御前小学校	33名
		アウトリーチ②	10月11日（木）	廿日市市立地御前小学校	34名
		アウトリーチ③	10月12日（金）	廿日市市立宮園小学校	24名
		アウトリーチ④	10月12日（金）	廿日市市立四季が丘小学校	66名
		コンサート	10月13日（土）	さいき文化ホール	131名
東広島市	喜羽 美帆 岡戸 朋子 小泉 なおみ <コーディネーター> 谷垣内 和子	アウトリーチ①	10月25日（木）	東広島市立河内小学校	34名
		アウトリーチ②	10月25日（木）	東広島市立河内西小学校	25名
		アウトリーチ③	10月26日（金）	東広島市立板城小学校	36名
		アウトリーチ④	10月26日（金）	東広島市立板城小学校	35名
		ワークショップ	10月27日（土）	東広島芸術文化ホールくらら	31名
福山市	箕田 弘大 都築 かとれ 新保 有生 <コーディネーター> 米澤 浩	アウトリーチ①	12月5日（水）	福山市立旭小学校	21名
		アウトリーチ②	12月5日（水）	福山市立旭小学校	22名
		コンサート	12月6日（木）	ふくやま芸術文化ホールリーデンローズ	109名
		アウトリーチ③	12月7日（金）	福山市立樹徳小学校	36名
		アウトリーチ④	12月7日（金）	福山市立樹徳小学校	36名

・アウトリーチプログラム参加者数 485名（モデルアウトリーチ83名、地域交流プログラムアウトリーチ402名）

・ホールプログラム参加者数 271名

### ◎総括公演プログラム

実施内容	実施日	会場	入場者数
ガラコンサート	1月26日（土）	広島県民文化センター	320名

## 2 演奏家プロフィール

◎：代表者

### [廿日市市担当]

◎<sup>もりた ひろより</sup>森田 博代 山田流箏曲

東京都出身。9歳より箏曲を始め、15歳より山田流箏曲の人間国宝、中田博之の高弟の大間隆之に師事。東京藝術大学大学院修了。在学中は、萩岡松韻、岸辺美千賀、井口法能、宮下秀冽、鈴木厚一に師事。2009年、皇居桃華楽堂にて御前演奏。大学院修了後は、文化庁主催「文化芸術による子供の育成事業」の巡回公演事業に参加（山梨、福島、長崎、岩手、秋田）するなど、幅広く演奏活動をしている。（公社）日本三曲協会、山田流箏曲協会、箏曲新潮会、箏楽会、和楽器オーケストラあいおい所属。

○<sup>みさわ たいき</sup>見澤 太基 尺八

北海道札幌市出身。尺八を菅原久仁義に師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒。同大学にて徳丸十盟、青木彰時（3代青木鈴慕）、田中康盟に師事。これまでに東京国立博物館における「光彩時空」、篠井英介主演の舞台『サロメ』での演奏、『さらい屋五葉』（フジテレビ）の音楽等に参加。熊本県立劇場、いわき芸術文化交流館アリオスのアウトリーチ事業に参加し、学校公演やガラコンサートに出演。

○<sup>やました さあや</sup>山下 紗綾 山田流箏曲

幼少より朝香綾子に師事。その後、朝香麻美子に師事。長唄三味線を杵屋彌太郎に師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒。同大学院音楽研究科修士課程修了。在学中、山田流箏曲を萩岡松韻、藤井千代賀、岸辺美千賀、井口法能、鈴木厚一、大間隆之に師事。合奏を宮下秀冽に師事。ロシアのサンクトペテルブルクにて第13回「国際音楽院の一週間」に参加。第1回利根英法記念邦楽コンクールにて優秀賞を受賞。第25回賢順記念全国箏曲コンクールにて賢順賞を受賞。（公社）日本三曲協会、山田流箏曲協会、箏曲新潮会、箏曲朝香会所属。

### [東広島市担当]

◎<sup>よしば みほ</sup>喜羽 美帆 生田流箏曲

7歳より箏・二十五絃箏・三絃を佐藤里美に師事。NHK邦楽技能者育成会第42期修了。箏・二十五絃箏ソロ活動を積極的に行うほか、和楽器・洋楽器はじめ演劇・ダンス等、様々な分野との表現活動を展開。メディア出演CM音楽等多数。自治体主催の和楽器体験講座やワークショップの講師を務める等、和楽器の普及活動や後進の指導に力を入れている。生田流地唄箏曲松の実会師範。（公社）日本三曲協会会員、生田流協会会員。東京都立晴海総合高等学校特別非常勤講師（音楽・箏曲）。

○<sup>おかど ともこ</sup>岡戸 朋子 生田流箏曲、胡弓

6歳より箏・十七絃・地唄三味線・胡弓を宮城会宗家直門大師範服部かすみ・小池典子に師事。NHK邦楽技能者育成会第55期修了。国立劇場やNHKホールなどの国内舞台をはじめ、アジア、ヨーロッパ、ニューヨーク、アフリカ、カザフスタン、ドバイコンサートなど海外でも活動の幅を広げている。国内海外の様々なアーティストとのCDレコーディング多数。日本の古典音楽をはじめ、現代曲、洋楽器とのコラボレーションなど和楽器の可能性を広めている。生田流箏曲宮城社師範。

○<sup>こいずみ</sup>小泉 なおみ 篠笛、能管

3歳から聴音や鍵盤楽器などの音楽教育を受ける。篠笛を龍笛・篠笛奏者の出口煌玲ほかに師事。能管を能楽師森田流笛方の野口亮に師事。これまでに海外18カ国と国内各地にて演奏。そのほかに映画「輪違屋糸里」、さだまさし作詞作曲CD「たくさんのしあわせ」、アニメ等レコーディングに参加。自身の作曲による和洋楽器CD「音の花 和風」「音の花 洋風」制作。京都にて祭事における篠笛指導と楽曲提供、京都・東京にて高校和太鼓部での篠笛指導など他方面にわたり活動。

### [福山市担当]

◎<sup>みのだ こうだい</sup>箕田 弘大 三味線

東京藝術大学音楽学部邦楽科長唄三味線専攻卒。これまでに、長唄三味線を杵屋五三吉、杵屋五吉郎、長唄を稀音家六静世、東音西垣和彦、ピアノを林智子、ソルフェージュを星野清、一ノ瀬弘子、ローラン・テシュネに師事。メディア関係の活動にも多く参加するほか、国内外でのコンサート活動にも多数出演。古典から現代、作曲や音楽教育まで幅広く活動している。（特非）日本音楽集団、和楽団 煌、アンサンブル室町、長唄東音会、（一社）長唄協会所属。

○<sup>しんぼ ありあ</sup>新保 有生 篠笛、能管

東京藝術大学音楽学部邦楽科邦楽囃子専攻卒。在学中に安宅賞受賞。篠笛・能管を鳳声晴由に、打物を堅田喜俊に、三味線を杵屋勝十郎に師事。邦楽器を使った作曲も手掛け、在学中に邦楽器楽曲「海」、邦楽ミュージカル『THE RYOUNKAKU』を作曲。古典曲から現代曲、バンドまで、幅広いジャンルで全国を舞台に活動中。「サントリーオールフリー」CM曲やゲーム「龍が如く 維新！」に篠笛で参加。（特非）日本音楽集団所属。国立音楽大学講師補助。

○<sup>つづき</sup>都築 かとれ 三味線

東京藝術大学音楽学部邦楽科長唄三味線専攻卒。長唄三味線を東音箕田弘大、長唄を東音西垣和彦に師事。2017年 World Baseball Classic 開幕式にて音楽隊として参加。2017年大学時代の同級生とのグループ「紡ぎ会」結成。第一回演奏会を行う。2018年三味線とピアノ編成による「アキトリトリ」自主公演を開催。各地の音楽教室にて個人やグループでの指導を行い、近年海外での演奏活動も広げる。同じく三味線奏者である弟、都築明斗と姉弟での演奏活動も行う。長唄東音会、（一社）長唄協会所属。

**3 平成30年度邦楽地域活性化事業全体スケジュール**

項目	平成30年度（広島県） 実施スケジュール		出席者
<市町村ホール担当者への事業説明会> 場所：広島県民文化センター 内容： (1) 事業の概要説明・事業説明 (2) 実施担当者等の実務について (3) 質疑応答	2018年2月26日		県担当者、3市ホール担当者、 チーフコーディネーター、地域創造担当者
<演奏家面談会>	2018年3月20日		候補演奏家、県担当者、チーフコーディネーター、 地域創造担当者
<コーディネーター会議> 内容： (1) 本年度の事業概要について （演奏家のチーム編成および担当 地域、担当コーディネーターなど） (2) 各プログラムの内容について (3) 今後のスケジュール	2018年7月24日		県担当者、チーフコーディネーター、 コーディネーター、サブコーディネーター、 地域創造担当者
<演奏家への事業説明会> 場所：地域創造 内容： ・自己紹介 ・事業概要説明 ・邦楽アウトリーチに係るレクチャー ・各プログラムの内容について ・事務説明（諸手続等について） ・チーム打合せ	2018年7月24日		演奏家、県担当者、チーフコーディネーター、 コーディネーター、サブコーディネーター、 地域創造担当者
<全体研修会&市町村現地見> 場所：広島県民文化センター及びサテ ライトキャンパスひろしま 内容（全体研修会）： ・事業の概要について ・チーフコーディネーターレクチャー ・OB演奏家によるORデモンストレー ション ・コーディネーター座談会 内容（現地見）： ・学校下見&打合せ ・3市ホール下見&打合せ	2018年8月22日～23日 →8月22日：全体研修会 →8月23日：現地見		演奏家、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 サブコーディネーター、県担当者、 3市ホール担当者、広島県内文化及び教育担当者 及びホール職員ほか外部参加者（研修会のみ）、 地域創造担当者
<チーム会議> 場所：チームごとに決定 内容：地域交流プログラム案の作成	森田チーム	2018年8月16日	演奏家、コーディネーター、サブコーディネ ーター、 地域創造担当者
	喜羽チーム	2018年7月19日	
	養田チーム	2018年8月21日	
<手法開発研修会> 場所：広島県民文化センター 内容： ・プログラム手法開発WS ・チームミーティング ・ランスルー ・総括公演打合せ ・モデルアウトリーチ	2018年9月24日～9月27日 →9月25日：中間発表 →9月26日：ランスルー →9月27日：モデルアウトリーチ		演奏家、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 サブコーディネーター、県担当者、 3市ホール担当者、 広島県内ホール職員ほか外部参加者、 地域創造担当者
<地域交流プログラム> 場所：3市学校&ホール 内容： ・学校アウトリーチ（各市4クラス） ・ホール公演（コンサートまたはワー クショップ）	森田チーム (廿日市市)	2018年10月12日：アウトリーチ 2018年10月13日：アウトリーチ 2018年10月14日：コンサート	演奏家、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 サブコーディネーター、県担当者、 3市ホール担当者、学校関係者、 地域創造担当者
	喜羽チーム (東広島市)	2018年10月25日：アウトリーチ 2018年10月26日：アウトリーチ 2018年10月27日：ワークショップ	
	養田チーム (福山市)	2018年12月5日：アウトリーチ 2018年12月6日：コンサート 2018年12月7日：アウトリーチ	
<総括公演プログラム> 場所：広島県民文化センター 内容：参加演奏家全組によるガラコン サート	2018年12月26日 2019年1月25日～1月26日 →12月26日：合同演奏曲練習 →1月25日：リハーサル →1月26日：通しリハ、本番		演奏家、 県担当者、チーフコーディネーター、 コーディネーター、サブコーディネーター、 地域創造担当者
<総括会議> 内容：事業の振り返り、次年度への提 言	2019年3月4日		県担当者、チーフコーディネーター、 コーディネーター、地域創造担当者



#### 4 全体研修会

全体研修会は、ホール担当者、行政担当者、アウトリーチ先の学校関係者と、コーディネーター、演奏家等、事業の関係者が全員集まって行うキックオフミーティングです。

今年度は、事業の関係者のみならず、邦楽分野のアウトリーチ・ワークショップ事業などに関心のある公共ホールや文化行政担当者、地域の邦楽関係者にも参加を募り、手法開発研修会や総括公演プログラムの会場となる広島県民文化センター及びサテライトキャンパスひろしまで行われました。

研修会の内容は、本事業の趣旨や流れ、準備作業内容の確認のほか、チーフコーディネーターの児玉真氏によるレクチャー、前年度参加アーティストによるアウトリーチデモンストレーション、本事業に参加するコーディネーターの座談会で構成されました。

邦楽のアウトリーチやワークショップの可能性についての理論的な講義の後は、参加者を生徒に見立てたアウトリーチデモンストレーションで、アウトリーチの具体的なイメージをつかみました。また、コーディネーターによる邦楽を取り巻く現状や地域で継続できる取り組みなど、ホール公演にとらわれない活動なども紹介する座談会を開催し、参加者はアウトリーチや本事業への理解をより深めました。

- 1 日 時 平成30年8月22日(水) 13:30~17:00
- 2 会 場 広島県民文化センター及びサテライトキャンパスひろしま
- 3 出席者 ひろしま文化振興財団3名、市町村ホール担当者3名、演奏家12名、  
チーフコーディネーター1名、コーディネーター2名、サブコーディネーター1名、  
地域創造4名、行政担当者3名、県内ホール担当者5名、他5名 計39名

#### 4 スケジュール

主催者挨拶 ひろしま文化振興財団 参与 藤森 聡

1. 事業概要説明 地域創造 副参事 仕田 佳経
2. チーフコーディネーターレクチャー 地域創造プロデューサー 児玉 真
3. アウトリーチデモンストレーション  
平成29年度参加演奏家：本間 貴士（箏曲）、多田 彩子（箏曲・薩摩琵琶）、  
澄川 武史（横笛）

4. 質疑応答など
5. コーディネーター座談会



チーフコーディネーターレクチャー



アウトリーチデモンストレーション

## 5 現地下見

現地下見は、ホール担当者と演奏家、コーディネーターが、手法開発研修会での地域交流プログラムの内容づくりに向けて、すべてのアウトリーチ実施校と市町村等ホールの視察と現地打合せを行うものです。

学校下見では、演奏家とコーディネーターが教室の広さや使える設備を最終確認するとともに、学校関係者との現地打合せを行います。また、ホール下見では、コンサート会場については舞台関係や進行の確認を、ワークショップ会場については広さにあわせて体験用の楽器の数や参加人数の上限などを決め、手法開発研修会でのプログラムづくりに反映させます。

今年度の現地下見は、全体研修会の翌日にスケジュールを組み、全ての演奏家が参加できるようにすることで、担当する市での地域交流プログラムのイメージ共有に努めました。

## 6 手法開発研修会

手法開発研修会は、コーディネーターと演奏家がホール担当者と共に、地域交流プログラムの内容について、現地下見で確認した市町村等ホールや学校の状況とニーズを踏まえ、合宿形式で集中的にプログラムづくりを行うもので、3泊4日の日程で、広島県民文化センターを会場に実施しました。

まず、演奏家とコーディネーターは、ひろしま文化振興財団および地域交流プログラムの実施団体のホール担当者とともに、担当する市毎のチームに分かれ、地域交流プログラムで訪れる小学校でのアウトリーチの構成を緻密に練り上げる作業を行いました。中間発表やランスルーでは、関係者全員で意見を出し合い、内容をブラッシュアップしました。

最終日には海田町立海田西小学校でモデルアウトリーチを実施し、研修の成果を確かめました。

1 日時 平成30年9月24日(月)～9月27日(木)

2 会場 広島県民文化センター

3 スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目
9:00				海田西小学校入り準備
10:00		チーム研修	チーム研修	モデルアウトリーチ① (10:40～11:25 4年生 音楽室)
11:00				セッティング
12:00		昼食	昼食	モデルアウトリーチ① (11:35～12:20 5年生 大教室)
13:00			ランスルー準備	給食交流
14:00	会場準備	チーム研修	ランスルー① 13:30～14:30	撤収・移動
15:00	開講式&オリエンテーション	中間発表① 14:30～15:15	休憩(20分)	セッティング
16:00	楽器開梱・研修準備	休憩(30分)	ランスルー② 15:00～16:00	モデルアウトリーチ① (14:00～14:45 6年 音楽室)
17:00	チーム研修	中間発表② 15:45～16:30	休憩(20分)	撤収・移動
18:00	休憩	休憩(30分)	ランスルー③	反省会/閉講式
19:00	チーム研修	中間発表③ 17:00～17:45	休憩(20分)	楽器梱包・発送作業
20:00		全体ミーティング(総括公演等)	チームミーティング	解散



中間発表の様子



中間発表の様子



ランスルーの様子



ランスルーの様子



ミーティングの様子



モデルアウトリーチ（4年）



モデルアウトリーチ（5年）



モデルアウトリーチ（6年）

**【海田町立海田西小学校モデルアウトリーチ】**

実施日	場所	演奏家	時間	クラス	参加者数
2018/9/27（木）	音楽室	箕田弘大、新保有生、都築かとれ	3校時目	4年生	26名
	大教室	喜羽美帆、岡戸朋子、小泉なおみ	4校時目	5年生	28名
	音楽室	森田博代、山下紗綾、見澤太基	5校時目	6年生	29名



## 7 地域交流プログラム

### 廿日市市

実施団体：公益財団法人廿日市市芸術文化振興事業団

担当者：田雁尚美

演奏家：森田博代・山下紗綾・見澤太基

コーディネーター：児玉真

サブコーディネーター：多田彩子

内 容	実施日	学校、ホール名	参加者数
アウトリーチ①	10月11日（木）	地御前小学校	33名
アウトリーチ②	10月11日（木）	地御前小学校	34名
アウトリーチ③	10月12日（金）	宮園小学校	24名
アウトリーチ④	10月12日（金）	四季が丘小学校	66名
コンサート	10月13日（土）	さいき文化ホール	131名

### 東広島市

実施団体：東広島芸術文化ホール指定管理者

担当者：蓮田竜太郎

演奏家：喜羽美帆・岡戸朋子・小泉なおみ

コーディネーター：谷垣内和子

内 容	実施日	学校、ホール名	参加者数
アウトリーチ①	10月25日（木）	河内小学校	34名
アウトリーチ②	10月25日（木）	河内西小学校	25名
アウトリーチ③	10月26日（金）	板城小学校	36名
アウトリーチ④	10月26日（金）	板城小学校	35名
ワークショップ	10月27日（土）	東広島芸術文化ホールくらら 小ホール	31名

### 福山市

実施団体：公益財団法人ふくやま芸術文化振興財団

担当者：藤井明生

演奏家：簗田弘大、新保有生、都築かとれ

コーディネーター：米澤浩

内 容	実施日	学校、ホール名	参加者数
アウトリーチ①	12月5日（水）	旭小学校	21名
アウトリーチ②	12月5日（水）	旭小学校	22名
コンサート	12月6日（木）	ふくやま芸術文化ホール 小ホール	109名
アウトリーチ③	12月7日（金）	樹徳小学校	36名
アウトリーチ④	12月7日（金）	樹徳小学校	36名

## 8 総括公演プログラム

総括公演プログラムとして、広島県民文化センターで全演奏家によるコンサートが開催されました。

「和音響演」と題した公演は、宮城道雄作曲の「春の海」で幕を開け、第1部は座奏スタイルで古典的な響きを、第2部は立奏スタイルで現代的な響きを持つ新しいイメージの邦楽を堪能できる構成。アウトリーチで演奏された曲に加え、山田流箏曲の古典曲の弾き唄いや、広島をイメージした新曲、三味線や二十五絃箏の独奏、篠笛と三味線のための現代邦楽曲など、各チームが個性を存分に発揮した幅広い内容のプログラムとなりました。

また、演奏の合間には各チームのリーダーが曲紹介や各市でのアウトリーチなどの様子を来場者に伝えました。フィナーレとなる出演者全員による合同演奏では、広島大学の作曲家徳永崇氏に編曲を委嘱した「春の海」を演奏。邦楽というジャンルの幅広さと奥深さを感じさせる構成により、和楽器の持つ幅広い表現力や邦楽の新たな可能性を伝えるコンサートとなりました。

### 【ガラコンサート】

日 時 平成31年1月26日(土) 14時開演

場 所 広島県民文化センター ホール (設定席数530席)

来場者数 320名

演奏家 森田 博代、山下 紗綾、見澤 太基、喜羽 美帆、岡戸 朋子、小泉 なおみ、  
箕田 弘大、新保 有生、都築 かとれ

主 催 公益財団法人ひろしま文化振興財団

共 催 一般財団法人地域創造

後 援 広島県、福山市、東広島市教育委員会、廿日市市教育委員会、海田町教育委員会、朝日新聞広島総局、産経新聞社、中国新聞社、毎日新聞広島支局、読売新聞広島総局、NHKひろしま放送局、中国放送、テレビ新広島、広島テレビ、広島ホームテレビ、広島エフエム放送



「春の海」



「万歳」



「去来」



「秋篠寺」



「勸進帳」



「城山によせる三章」



「篠笛と三味線のためのコンポジション」



「琵琶行」



「春の海—9名による和音響演—」



## Ⅱ－２．平成30年度 アウトリーチ進行シート

アウトリーチ進行シートの掲載に当たって

平成30年度チーフコーディネーター 児玉 真

### 10年目の邦楽地域活性化事業

地域創造が2009年にモデル事業として邦楽地域活性化事業を立ち上げてから10年目になる（途中1年のブランクがあるので今年の広島が9回目）。その間毎年3人三組ずつの邦楽器演奏家とコーディネーターの皆さんと、それまでにないタイプの新しい邦楽アウトリーチのスタイルを作っていくつもりで取り組んできた。

クラシック音楽も邦楽も、アートという美の世界と歴史という伝統の世界の間を行き来して表現を作ってきた実演家が表に立つ音楽のジャンルである。演奏家というメンタリティも音楽で伝えることも共通するところが多くあるようにも感じられるし、クラシック音楽での公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）での10年ほどの経験と手法を活かしてやってきた。実際、演奏家のみんなとつくるプログラム作りの大枠のところでは、いくつかの特殊事情を除けばほぼその通りに推移してきた。主催者にとっても邦楽の演奏家が企画をとともにアイデアを出し合いながら作っている相手であることが少しずつ浸透してきたのではないかな。

今年の広島プログラムは大雨などの災害にもかかわらず、県の担当者の熱意と制作に対する行動力によって成果を残せたと思うし、市の事業でも少し心配していた、コンサートを最後に行う会館でも予想以上に雰囲気の良いコンサートになった。

今年はいくつかの試みをした。

1. サブコーディネーターを実験したこと。現コーディネーターの高齢化が心配される邦楽界は長期的には次世代のコーディネーターを育てていくことは喫緊の要請だと思う。今回予算的に少し無理をして一人だけお願いしたけれども、候補の発掘と経験機会を作り継続していかないと行き詰まる可能性がある。本人は関わるスタンスがわからず若干戸惑いがあったと思うが、楽器扱いに慣れていない私などは非常に助かった。次はホールとの間をよりコーディネートできる人も必要になってくると思う。
2. 前年度にも意識していた「箏中心の合奏をベースに考えずジャンルの選択の幅を広げる」ことは今回も意識した。内容的には歌舞伎に取り組んだり、新作委嘱をするグループがあったりと悪くない展開だと思っている一方で、もっとこの場を遊んでくれたり実験場にしてくれるようなアーティストの出現を期待したい気持ちもある（クラシックでは何人か居る）。その意味でも、この事業を面白いと思ってくれる若い演奏家の参加のしやすさをどう作っていくかという課題は残っていると思う。質的な心配がないとも言えないけれど、邦楽器バンドが成功している時代背景から、確実に伝統に根ざしながら新しいやり方を開拓してくれるような仕組み作りが求められているかもしれない。同時に、今まではすべて3人の合奏でのプログラム作りをやってきたけれども、もう少しアーティスト個人に迫るアウトリーチ作りも並行して考えていった方が良いのではないかな（コーディネーターの経験が豊かになることで対応できるのではないかと考えている）

邦楽はまだまだ少しの公共ホールしか積極的に取り上げようというジャンルになっていない。県が中心となっていく今のやり方ではなく、市町村が手を上げやすい邦楽アウトリーチ事業を今後考えていくことになると思う。

今年も、各グループの進行プランを「とても主観的に」メモしたものを掲載するが、喜羽さんのグループは谷垣内さんが作ってくれた良く出来た進行プランがあるのでそれを載せることにする。今後の参考にして欲しい。



1 アウトリーチ進行シート(廿日市市)

2018年10月12日		廿日市市宮園小学校			
実施先の情報		山の住宅地の小学校。習いごとをしている人も少なくない			
出演者(編成)		森田博代(箏、歌)、山下紗綾(箏、三味線)、見澤太基(尺八)			
ねらい/目標		箏歌の面白さ、秋篠寺への森田さんの想いとメッセージを伝える			
時間	シチュエーション	曲目	具体的にを行うこと、話す内容	伝えたい事/感じてほしいこと	備考・注意点
0:00	導入		<p>こんにちは。私たちは東京から一緒に日本の音楽を楽しみたいとやってきました。私は箏を演奏します森田博代です。私は箏と三味線を弾く山下紗綾、尺八を吹く見澤太基です。よろしくお願いします。</p> <p>(Mo) 突然ですが廿日市はけん玉発祥で有名でみんなが出来ると聞いていたので、見澤さんが練習をしてきた。上手く出来るかな。みんなは兎と亀の話知ってますか。じゃあ、一緒にもしもしかめよの曲を歌って応援してください</p>	導入	
		(うさぎとかめ)	<p>実はこの話を箏で演奏するためにウサギとカメの曲を書いた人が居ます。でも一緒に歌も歌います。こういうものを「箏歌」といって一緒に歌う歌がとても大事な役割をします。</p>	箏歌が基本である箏を話す	「箏歌」パネル
		M 兎と亀(箏と三味線)	<p>(Mo) みんなこの先の話は知っているね。普通歌う歌とは歌い方が違ってきます。今日は3人で来ているので箏と三味線と尺八で演奏してみたいと思いますが、その前にそれぞれの楽器について紹介したいと思います。</p>		
8:00	楽器の紹介		<p>&lt;箏&gt;高さ、13弦、琴柱、爪、押すように弾く、左手で押す、いろいろな音色が大好き</p> <p>&lt;三味線&gt;木と箱に皮が張ってある、琴柱の代わりに駒がある、バチを持って糸をたたき。糸巻きで音を変える、糸を押さえても音を変えられる、さわり。ビーンって。繊細なのとパリッとした音が好き</p> <p>&lt;尺八&gt;これは竹で出来てる。真竹。穴が前に4つ後ろに一つ。指を微妙に開けたりしても音を変えられる。リコーダーとは違って顎で音を変えることも出来る。むらいき。みんなと違う音を工夫できるのが魅力。</p> <p>(Mo) でも、この3つの楽器ともう一つパートがある。何だったっけ? そう、箏歌の歌。</p>	各楽器、素材や特徴、音の出し方、ちょっと変わったところ、好きなところを話す	
		三つの楽器の合奏	<p>演奏するのは「江の島の曲」を聴いてもらうけれど、この曲では歌を3つの楽器が盛り上げていくのですが、3つの楽器だけの部分を聞いてみてください。</p>		

19 : 20	自分の好きな曲	※江の島の一部  M 江の島の曲	ここに歌を入れてみます。この江の島という曲は歌から始まるのですが、わかりにくいから合図を出す。見澤さんが尺八を吹くところからさっき聞いてもらったところが出てきます。歌が入るとどんな感じになるか注目してください。  (Mo) どうでした、歌が入ると3つの楽器はそれぞれに違う弾き方をしたりずらしたりして盛り上げていく。日本の合奏の面白さや良さはこんなところにあります。	日本の3つの楽器の合奏の不思議な面白さ	
27 : 40	イメージの世界	M 秋篠寺 序	次に聞いてもらう曲は「秋篠寺」という曲。秋篠寺は奈良にあるお寺。その住職が詩を書いて私の箏の先生の先生が作曲した。秋篠寺は私も行ったことがあるけれども静かで木々に囲まれていて中に伎芸天という神様がいます。宮島に弁財天がいるように、芸能の神様。私たちは行くと上手くなるようにお願いする。 今度は歌と箏と尺八で演奏します。江の島では全員が同じようなメロディを弾いたけれど、この曲ではそれぞれが違うメロディを演奏するので響き方が違います。秋篠寺に行ってみましょう。 皆さんは奈良にいます。まず秋篠寺に行ってみましょう ※写真3枚(苔の庭、お堂、伎芸天)	秋篠寺の導入	秋篠寺を旅する
35 : 30		M 秋篠寺 春	門を入ると、静かで苔の庭があります。苔の庭を通っていくとお堂が見えてきます。お堂に想像で入ってみます。入るとろうそくのほのかな明かりの中に伎芸天が見えてきます。その前に座ってみてください。どこからともなく音が聞こえてくる		
		M 秋篠寺 夏	(Y) 季節は春になりました。皆さんは秋篠寺の庭にいる。山桜が咲いているのが見えます。それが風に散っていく。  (Mi) 夏になりました。静かな寺だけど風が吹くと？。雀たちが鳴いています。しかし、夕方になると風もなくなり、鳥たちも巣に帰って静かなお寺に戻っていきます		
			(Mo) 今まで春とか夏の様子をやってきたけど、イメージが出来たかな？ 冬になりました。 冬の静かなお寺の中、鐘の音が聞こえています。お堂の中には伎芸天がひっそりとたたずんでいて静かです。	秋篠寺から想いへ	

[Ⅱ-2. 平成30年度 アウトリーチ進行シート]

40:00	メッセージ	M 秋篠寺 冬 から終章	<p>そのとき詩を書いた住職さんはお堂に座ってふとこう思いました。 「みんなが住むこの世界が美しくあってほしい。」 美しくあって、というのは例えば、きれいな海とか川とか、自然だったり、桜がきれいだな風が気持ちいいなというのが美しくあってほしい。身近にある美しいものがあります。そういうものを音から探しながら聞いてくれると嬉しいです。</p> <p>私はこの曲が大好きで、初めて聞いたときに胸がキュンとなる感覚だったのを今もよく覚えています。みんなも胸がキュンしたり心が動かされる音楽に是非であってほしいと思います</p>		
-------	-------	-----------------	--	--	--

2 アウトリーチ進行シート(東広島市)

実施日時	2018年10月25日、26日	実施先	東広島市立河内小学校、河内西小学校、板城小学校	
実施先の情報	いずれの学校も自然に恵まれた環境に立地。東広島市北東部の山間の農村風景が広がる河内西小学校はこの年で廃校となり、河内小学校と合併の予定。両校とも全員が仲良く温かい雰囲気。西条町南端に位置する板城小学校は少し雰囲気が異なり、1学年2クラスで教育熱心な伝統が活きている。			
出演者	喜羽美帆(箏) 岡戸朋子(箏、胡弓) 小泉なおみ(笛)			
タイトル/テーマ	「音で見る・音で感じる」			
ねらい/目標	目に見えるものだけでなく、目に見えないものを、大好きな邦楽器の音を通して、想像したり感じたりする感覚を体験させる。			
時間	内容①	担当	内容②	配置・動き等
0:00	登場		小泉⇒岡戸⇒喜羽の順に登場	担当楽器と名前をボードに記載 テーマを記載したボード用意 左:二十五絃箏、右:十七絃、中央:胡弓(ピアノ椅子と胡弓置台) その他:笛置台、フリップ用の譜面台(左右に) ●子どもたちは床に体育座り
	挨拶 自己紹介 (1:00)		喜羽:5年2組のみなさん、こんにちは。【こんにちは~】 先ほど給食で一緒させていただいた人もいますけど、私たち三人は東京からやって来ました。私の名前は喜羽美帆です。二十五絃箏を演奏します。よろしくお願ひいたします。【よろしくお願ひしま~す】 岡戸:私はこの胡弓という楽器とそこにある十七絃という楽器を演奏します。岡戸朋子です。よろしくお願ひいたします。【よろしくお願ひしま~す】 小泉:こんにちは。私は、この篠笛っていう日本の笛を吹きます。小泉なおみです。よろしくお願ひいたします。【よろしくお願ひしま~す】	楽器の前に並んで立ち、お辞儀・挨拶(喜羽⇒岡戸⇒小泉) 喜羽⇒ボードに書いてある名前を指し示す
	導入 (0:50)	喜羽	先ほど給食で一緒にお話した子もいますが、実は私たちは8月にこの板城小学校のほうにお邪魔させてもらって、音楽室を見たりして、どんな曲が皆さん好きかなあ~なんていろいろ考えながら、皆さんに会うのをほんとに楽しみにやってきました。今日はいろいろな曲を聴いてもらおうかな~と思っています。 では、早速、一曲目です。《ワンワンニャオニャオ》というタイトルの曲です。 どこかに動物の鳴き声が出てくるかもしれないので、よく聴いてください。	各自=楽器のほうに移動  小泉:曲名フリップ提示
1:50	演奏①《ワンワンニャオニャオ》 (1:50)	胡弓:岡戸、 二十五絃箏:喜羽、 篠笛:小泉	前奏後、1曲目は二十五絃箏と胡弓(歌入り)、2回目は歌の代わりに篠笛入りの三重奏	センターに胡弓、下手に二十五絃箏、上手に篠笛



【Ⅱ-2. 平成30年度 アウトリーチ進行シート】

<p>胡弓について (2:00)</p>	<p>岡戸</p>	<p>お辞儀⇒拍手 犬の声聞こえました？ 今、犬の鳴き声とかをしていたこの楽器、胡弓といいます。漢字は「古い月に弓」と書いて「胡弓」といいます【黒板を指し示しながら】。右手にもった弓で糸をこすって音を出します。【音を出しながら】では、この弓。白い部分は、動物のある部分から出来ています。なんで出来ているか、わかりますか？【子どもたちのほうに近づいて示しながら質問】【くじらのひげ、馬のシッポ】 そうです。馬のシッポで出来ています。みんなヴァイオリンとか見たことあると思うけど、ヴァイオリンとかと似ているんだけど、その馬のシッポで糸をこすって音を出す日本の楽器です。 胡弓は糸が三本あります。低い音と高い音、中くらいの音があります【弾きながら】 低い音を出すときは楽器をくるり。真ん中の糸を弾くときは、右手を動かすのではなくて、楽器をくるり。【動きを示しながら】 高い音を弾くときは、またくるりと楽器を回転させる。こういうふうには楽器を回転させて弾く楽器です。左手で・・・実例を示しながら、音階を弾いたり、スリ下げスリ上げ等を示しながら、音の高さを調整する。胡弓という楽器です。また、最後の曲で登場するので楽しみにしててください。</p>	<p>二十五絃箏調弦変え 小泉：椅子に 岡戸：説明終わりで後ろに移動</p>
<p>今日のテーマ (1:30)</p>	<p>喜羽</p>	<p>今の《ワンワンニャオニャオ》で動物の鳴き声などを胡弓で表現していましたが、今日は私たち、皆さんにお伝えしたいことがあります。【後ろに移動してテーマを表示】今日のテーマは「音で見る、音で感じる」というテーマです。先ほどの《ワンワンニャオニャオ》でも出てきた動物の鳴き声とか、景色とか風景とか目に見えるものだけじゃなくて、物語の内容とか、気持ち、心の動きとか。そういう目に見えないものも、目に見えるものも、この4つの楽器で表現してみたいと思います。そして皆さんがこれを聴いて、どんな風景が見えたり、どんな気持ちになるかなということを感じ取っていただきたいなと思っています。今胡弓の説明を岡戸さんにしてもらったので、次の曲は《凜》という曲です。この曲は、今篠笛を吹いていた小泉なおみさんが作曲した曲なんですけれども。なおみさんに、作曲したときのいろいろなお話とか、篠笛についてのお話を聞かせてもらおうと思いますので、お願いします。</p>	<p>岡戸：胡弓片付け⇒センター椅子片付け⇒十七絃の位置で座る 小泉：《凜》フリップ提示 喜羽：説明終わりで二十五絃箏の位置で座る</p>
<p>篠笛と《凜》について (3:30)</p>	<p>小泉</p>	<p>篠笛のお話をしましょう。今日はたくさんの方の篠笛を持ってきました。【手に持って示しながら】こんな色のもあります。こんな長いのも短いのもあります。いろいろあります。全部篠笛です。【子どものほうへ近づきながら】「篠笛見たことある人いますか？」【何人が挙手】「あ、お神楽か何か？ どこで見ました？」【2人ほど子どもが答える・・・】皆さんの身近でこれから見るかもしれないのは、お祭りとか、私たちがよく知っているような歌を演奏するときなんかで篠笛はよく使われています。じゃあ、これ何で出来ているかわかりますか？【竹】 その通りです。色がついているのは、漆っていう日本の絵の具が塗っている。お味噌汁を食べるときのお椀と同じ、漆で塗られています。今日は一番長い篠笛と一番短い篠笛を持ってきたので、ちょっと聴き比べてみましょう。【《ワンニャオ》一部実演】長いほう⇒短いほう 音が違うのわかりますか？ どう違いましたか？ 長いほうが？【低い】、短いほうが？【高い】 いろいろな音の高さの篠笛があります。これが篠笛です。 ところで皆さんは、自分が言いたいことをお父さんやお母さんとか、お友達に分かってもらえなくて困ったことってありますか？【ありまーす】 困るよね。分かって！って思うよね。そういう時にはこの《凜》という曲を作りました。「私の声を聞いて」「私の気持ちを分かって」っていう気持ちが曲になっています。どんな曲になったか、聴いてみてください。</p>	<p>小泉：笛置台を持って中央へ移動⇒適宜動きながら説明 喜羽：《凜》の説明カカリで笛置台中央後ろへ移動</p>

10:45	演奏②<凜> (3:30)	篠笛：小泉、二十五絃箏：喜羽、十七絃：岡戸		
エピソード 伝えたい 思い (2:15)	小泉	拍手 私の気持ちを分かって！という熱い気持ちは伝わりましたか？ こういうふうには、何か思ったときに言葉で表すこともできますが、こうやって音で表すこともできます。言葉を使わずに音で表すと、言葉が通じない外国の人にも、こういう気持ちを気持ちと気持ちでわかってもらえることがあります。私たちは外国で演奏することもよくあるんですけども、言葉が通じない外国の人にもこうやって気持ちを音で伝えようとする、例えばすごい楽しい曲を演奏すると踊りだしてくれた人がいます。すごい悲しい曲を演奏すると涙を流してくれた人もいます。言葉は通じないんだけど、気持ちは分かってももらえました。皆さんもいろいろな国の曲を聞いてみると、いつも見ている景色は違うけれど、同じ気持ちを持っているんだな、みんな同じような感情を持っているって気づくことがあるんじゃないかなと思います。私はそうだったんですね。音楽って面白いなー、楽しいなーって思いました。そして国もそうだけれども、昔の曲、今の曲。そういういろいろな時代の曲も聞いてもらおうと、昔の人もやっぱり同じ悲しい気持ちとか、きれいな曲を聞きたいと思ったり、同じ気持ちを持っているなーと発見することもある。一番身近な日本の曲。日本の曲も昔の曲から今の曲までいっぱい聞いてもらいたいと思います。それでは次に<凜>でいっぱい活躍していたおコトの話をお聞かせください。		喜羽・岡戸：座ったまま 小泉：説明終わりで中央にハケ⇒箏置台を持って上手へハケ
おコトについて (2:40)	岡戸	こちらにあるおコトは十七絃とって、糸が17本あります。そしてこちらにあるおコトは二十五絃箏とって、糸が25本あります。さっき篠笛で音を聴かせてもらいましたが、おコトでも音を聴き比べてみましょう。じゃあ、二十五絃箏の音をお願いします。【高音から中音域あたりまでをグリッサンド往復】 すごくキラキラした高い音がしますねー。じゃあ、十七絃はどんな音がするか聞いてみてね。【中音域から下のほうへ順に弾く】【ざわざわ。低〜】この十七絃は、低い音を得意とする楽器です。合奏をするときは、低い音でリズムを支えたりする役目です。【二十五絃箏は調弦変えスタート】 おコトは親指、人差し指、中指にお爪をはめて弾きます。でも、この指だけで弾くのかなーと思うと、そうではなくて、さっき<凜>でもこうやって左手を使っていたと思いますが、両手の指ではじいたり、和音を出したりします【サンプル演奏】。そして今、二十五絃箏はああやって音の高さを変えています。ネジを回して音を低くしたり、高くしたりしています。同じように、糸の下にある白いもの、これを コトの柱と書いて「琴柱」といいますが、これを動かしたりすると、音が高くなったり低くなったりします【実演しながら】。また、琴柱の左側を強く押すと音が高くなったり、揺らしたりすると音が変わります。いろんな弾き方があります。今まで三人で演奏してきましたが、今度の曲は、二十五絃が一人でおコトを弾きます。その時に今言った、柱を動かしたり、左手で押したり、指ではじいたり、滑らせるように弾いたり、柱の左側を弾いたり…。いろいろな弾き方が出てくるので、そんなところも楽しみながら聞いてください。	喜羽：二十五絃箏の調弦変え	

[Ⅱ-2. 平成30年度 アウトリーチ進行シート]

	<p>《琵琶行》について～ストーリーと伝えたい思い (4:30)</p>	喜羽	<p>次は《琵琶行》っていう曲なんだけど、私一人で弾くので、皆さんに近くで見てもらいたいなと思っています。もし出来たら、寄っててもらいたいと思うので、これから「立ち上がってください」って言ったらみんなで立ち上がってちょっと動きをして、なるべく壇の下まで来てもらって、この右側も登ってもいいです。なるべく近くで、手の動きとか響きとか、感じてもらいたいなと思っています。</p> <p>じゃあ一旦、皆さん立ってください。でちょっと伸びましょう。じゃあ一列目の人から前のほうに来てください。体育座りでも良いし、おコトの周りに集まってください。もし見えなかったら立っても良いですよ・・・。【生徒移動⇒喜羽：《琵琶行》の絵を手にして】</p> <p>じゃあ今から、《琵琶行》という曲のお話をします。この曲は、古い中国の物語をおコトで表現したものです。この真ん中にある男の人（見えますか？）この男の人が主人公です。すごく華やかなところでお仕事バリバリしていた。ある日、お仕事失敗しちゃったので、人里離れた、ちょっと寂しいところに行かなくっちゃいけなくなりました。お友達もいないし、すごく寂しいなと思っていたところへ、久しぶりにお友達が訪ねてきてくれたので、大きな川に舟を浮かべて、お酒を飲んだり、お食事したり、お話したり。いつも誰もいなくて寂しいよとか、お仕事失敗しちゃってすごく辛くて悲しかったよ・・・なんてお話をしていたら、どこからともなくすごくきれいな音楽が流れてきて。何かなと思ったら、この女の子が弾いている琵琶という楽器の音色だった。【図示しながら】これが琵琶という楽器。なので、「琵琶行」という曲に楽器の名前が付いています。あまりにも美しい音色だったから、お話を聞いてみたら、男の人と女の子は、同じ華やかな場所で、同じ町で演奏していたんだって。それですごく美人だから、演奏家としても大人気だったんだけど、ある日戦争が起こったので、国を出なきゃならなくなって、寂しい場所にやってきました。辛く悲しい気持ち。昔はきれいだったけど、歳をとって衰えてしまって誰にも相手にしてもらえなくなって、辛くて寂しい気持ちですよ。この男の人と女の子は同じ気持ちだねーって。その気持ち、よく分かります。もう一回、あなたの美しい琵琶を、激しい、悲しい切ない琵琶を聞かせてくださいねというのが、この「琵琶行」という中国のお話の内容です。これからそれをおコトで表現してみたいなと思います。ここに月が出ているね。季節は秋。今と同じだね。ちょっと想像してみようかな。川に来て、舟を浮かべて、月が出ている。今みたいに朝と夜は結構寒いなー。もしかすると虫が鳴いているかもしれない。月が出ていて。昨日も満月で、とてもきれいだったよね。月の光って結構、明るくて強いよね。そんな中で、音楽が聞こえたら自分は、どんな気持ちになるかなーと想像しながら聴いてみてください。</p>	<p>岡戸：フリップを後ろからセンターに移動 岡戸・小泉：子どもの移動サポート後、子ども側にハケル</p>
23:40	演奏③《琵琶行》 (6:50)	二十五絃箏：喜羽		岡戸：「琵琶行」の文字フリップを裏返す
	《もみじ》への導入 (1:15)	喜羽	<p>拍手 近くで見ると振動とか感じた？ 意外と絃がびよんびよんびよんとした？ 寂しい感じとかした？ じゃあまた立って、元いたところに戻ってみましょう。戻ったら座りましょう。</p> <p>今は中国の秋の曲を聴いてもらったんですが・・・。今は、2か月前に私たちがここに伺った時から少しずつ秋が深まってきて紅葉が進んできています。日本にも素敵な秋の曲がたくさんあるので、ちょっと耳を澄ませて聴いてみましょう。</p>	岡戸：演奏終了後、フリップ下げる センターに椅子セット⇒後ろの胡弓位置あたりで待機
31:45	演奏④《もみじ》 (1:10)	篠笛：小泉		子どもたちの間から歩きながら演奏

	<p>《森羅の瞬き》について (2:30)</p>	<p>小泉</p>	<p>《もみじ》でした。知ってる？ 山の色が少し秋っぽくなってきました。私たちが広島に来ると、広島って山とか森がたくさんあって、豊かだなあ~と思います。今回、皆さんと同じ広島で生まれ育った方で、ミヤケリョウさんって方がいるんですけど、その方に曲を作ってもらいました。「森羅の瞬き」というタイトルで、森羅万象という言葉、二階と三階の間の階段に貼ってあったの知ってる？ その「森羅」。森をテーマに曲を書いてもらったんだけど。これは夜の森です。夜の森って入ったことある人いる？ あ、いますね。夜の森に入ると、土の匂いを感じたり、月の光が木の葉っぱの間から降ってきたり、風が吹いてくる音がすごく大きく聞こえたり。いろいろなことを感じる。私はそうなんですけど……。いろいろなことを感じました。この曲を三人で演奏していると、やはりそのようないろいろなこと、森から感じるような光や空気や匂いを私は感じました。みんなはどのように感じるか。何も感じなくとも良いのだけれども、もしかしたら私たちの演奏から、何か見えるかもしれないし、感じるかもしれない。何か見えるかな、感じるかなという気持ちで聴いてください。</p>	<p>岡戸：フリップ提示⇒十七絃少し後ろに移動⇒胡弓を持ってセンター 喜羽：調子変え</p>
35:30	<p>演奏⑤《森羅の瞬き》 (6:00)</p>	<p>篠笛：小泉、胡弓：岡戸、二十五絃箏：喜羽</p>		
	<p>エピソード 身近にある大切なもの (1:40)</p>	<p>岡戸</p>	<p>拍手。全員そのままの姿勢でお辞儀。 ありがとうございました。みんなが登下校の時にある森とか自然も曲にするとすごく壮大な感じになりましたよね。みんなのいつも身近にあるものとか、大切なものとかあると思うんですけど、なかなかいつも一緒にいたりすると気づけなかったりしますよね。私もね、6歳からおコトをしていました。でもその大切さとか、そういうことにずっと気づけずについて、アメリカに数年間住んでいたことがあったんですけど、その時に友達にニューヨークで和楽器の人がコンサートするから、確か和楽器やってたよね、一緒に行こうよって誘われて行ってみたら、大きなホールで、一人で真ん中で日本人がコンサートをしていました。終わったらみんなスタンディングオベーション。席を立て、ブラボーってほちきれんばかりの拍手で、すごく感動して自然に涙が出てしまいました。その時に改めて、私っておコトが大好きだったんだなって気づけたし、海外の方たちが日本の文化スゴイって言ってて、改めて日本の素敵なこととかにも、外に出て気づくことが出来ました。みんなも既に英語だったり、サッカーだったり野球だったり、ほかにも好きなものとか、大切なものがみんなのなかにあると思うし、まだ見つけられていない人もいますけれども、何かそんなものに出会ったときは、それを大切にしたいな~と思います。</p>	
	<p>結び 今日伝えたかったこと (0:50)</p>	<p>喜羽</p>	<p>今日は、「音で見る、音で感じる」というのをテーマにして、いろいろな曲を聴いてもらったんですけど、私たちが楽器をものすごく大事に思っていて、この大切に思っているものを皆さんに聴いてもらったこの時間がとても大切に、宝物みたいな時間だったなと思います。この気持ちを忘れずに東京まで帰って、これからも今日のことを思い出して頑張って行こうと思いますし、皆さんも今日見えた景色とか気持ちとかもしあったら、そうしたことを、感じたことを大事にしてくれたら、私たちはとても嬉しいです。 皆さん今日はありがとうございました。</p>	

[Ⅱ-2. 平成30年度 アウトリーチ進行シート]

	告知 (1:00)	喜羽	<p>和楽器って今日初めて聞いた楽器もあるのかもしれないけれども、意外ととっつきにくかったりするかもしれませんけれども、明日10月27日の土曜日に東広島芸術文化ホールくららってみんな行ったことある？ 西条駅の近くだね。そのくららで邦楽ワークショップというのがあります。おコトと篠笛が体験できます。みんなで《さくら》を弾いてみよう。最後にくららのホールの舞台上、みんなで発表会をしましょう。くららのテーマ曲をみんなで作曲してみようかなという企画を考えているので、もし皆さん来れたら是非お待ちしております。今日演奏した曲も含めて、私たちのミニコンサートもあります。入場無料ですから来てください。また、来年の1月26日、広島県、県民文化センターのホールで「和音饗演」というコンサートがあります。私たちもいると思いますけども、3人のほかに全員で9人の演奏家が三味線、箏、篠笛、尺八、ほかにもいろんな和楽器があります。もし良かったら、広島原爆ドームの近くにあるホールなんですけども、よろしかったら是非来てください。みなさん本当に今日はありがとうございました。</p>	岡戸・小泉：WSとガラコンのチラシ提示
45:00	おしまい		拍手 男女2人代表からお礼の言葉。全員起立	



3 アウトリーチ進行シート(福山市)

2018年12月5日		福山市旭小学校6年生			
実施先の情報		少し前に能楽の先生が来て教えていった。町中心に近い小学校			
出演者(編成)		簗田弘大(三味線)、都築かとれ(三味線)、新保有生(能管、篠笛)			
タイトル/テーマ		勸進帳(歌舞伎)			
ねらい/目標		三味線が使われている歌舞伎の生の音楽を感じる			
時間	シチュエーション	曲目	具体的に行うこと、 話す内容	伝えたい事/ 感じてほしいこと	備考・注意点
0:00	導入	M1 狂い	<p>(M) 今日、今日僕たちは日本の楽器を演奏に来ました。三味線を演奏する簗田弘大と(T)都築かとれです。(S)私は笛を演奏する新保ありあです。</p> <p>(M)僕たちが演奏する三味線や笛は普段どんなところで演奏しているかという、歌舞伎で演奏しています。</p> <p>(S)歌舞伎というのはこんな風に書きます。「歌」「舞」「伎」。それぞれに意味があって。歌は歌うこと、舞は踊ること、伎は楽器を弾く技ということ。歌って踊って技を見せるのが歌舞伎です。今は連獅子という曲の中の「狂い」という部分で、獅子ってわかるかな。こんなのが髪をぐるぐるんと振りながら踊るのを「狂い」。</p> <p>でも、僕たちはただ伴奏をしているのではない。ではどんなことをしているかという</p> <p>(M)舞台でどんな音楽をしているかという、例えば情景を動物が出てきたら真似をする。たとえば、サルが出てきたら&lt;弾く&gt;、カエルなら&lt;弾く&gt;と真似して弾く。では次の音はなにだと思いますか?&lt;弾く&gt;(…)ではクイズにする。三択、鳥、虫、宇宙人。聞くよ、鳥だと思う人……。歌舞伎では虫を表している。でも曲ではどうなっているかを聴いてみてください</p>		歌舞伎文字を掲げる  獅子の絵
8:00		M2 虫の合方(簗田、都築)	<p>虫の鳴き声が入った曲でした。チンチロリンとか見つけられましたか?</p> <p>(T)二人は違うことをしていたけれども、音だけでなく二つの楽器違うところがある(その横の棒)。そう、これはかせとって、音の違いを出すためにつけている。私の方が高い音を出している&lt;弾く&gt;。曲を派手にしたり華やかにしている。</p> <p>ほかにも自然や風景や場面を表わすこともある。これはどういう風景?&lt;弾く&gt;。三択、風が吹く音、川の流れる音、雪が降ってる。これは川の音だけれど、弾き方によって流れが速かったり静かだったり。歌舞伎の中でどう使われているか、川、周りの風景などを注意して聞いてください。</p>		

15:00		M3 川の音 (佃の合方)	三味線は歌舞伎の中でいろいろな情景を表しているけれど、どのように弾いているかこのバチを持って弾く。しゃもじのとがったような形をしている。これを持って上から弾く、また下からも弾く事が出来ます。掬いという。左手でこのようにはじく「はじき」というという弾き方もある。左手にはもう一つ役割があって糸を押さえて音の高さを変える。次の曲では3つの弾き方と押さえるところがたくさん出てくるので聴いてみてください。		
18:50 20:10	笛の紹介	M4二人大薩摩	(S)笛も面白いところを紹介していきたい。笛は2種類ある。まずこっちの笛。みんなは能の勉強をしているよね(能管)。同じ笛だけど使い方が違って、能では鼓や太鼓や歌が入るけれど、歌舞伎では三味線。能ではメロディは笛だけど、歌舞伎ではメロディは三味線も入るので役割が少し違う。この笛、指をあけていくとどんなになる?。<吹く>。ちょっと音痴な感じ。リコーダーと違うね。三味線と違うメロディを雰囲気や場面をあらわす。たとえばこんな音だったら<吹く>(おぼけ)。能管というのはこんな感じで使われている。もう一つの笛は篠笛。お祭りでよく使うね。これは普通にドレミが吹ける。お祭りではこんな感じで吹く<吹く>。でも歌舞伎では、音が決まっていなくて、吹く人が三味線や歌を聴きながら雰囲気を自分で考えて音を作って吹いている。だからいろいろな笛を持ち替えて吹く。試みに、恋の切ない感じを、あえなくて切ない…という感じを吹くと<吹く>こんな感じになるかな。		
31:00	勸進帳		これで笛や三味線が歌舞伎の中でどう使われているかがわかったと思います。歌舞伎はたくさんの方が演奏や演技をするけれど、最後に歌舞伎で一番有名な勸進帳の場面をやってみる。今日は3人だけれど歌舞伎の舞台はこんな感じ。歌、太鼓、いろいろな人がいる。少しお話を知っておいてほしい。義経と弁慶、それと関所の富樫が出てくる。<絵を活用してストーリーを説明する>今日は、全部やると40分とかになってしまうので、その中から最初の部分と最後の部分の良いところだけを聞いてもらいたいと思いますが、歌を歌う人がいます。歌詞はこんな感じ<掲示して歌詞を説明する>音楽が場面を表していると思ってもらえたと思うので、こんなシーンかなと想像してみてください		歌舞伎の写真  紙人形と絵  歌詞掲示
40:00		M5 勸進帳			

---

## **Ⅲ. 平成30年度 事業報告**



## 1 主催団体報告

---

[公益財団法人ひろしま文化振興財団 事業推進員 高井 晴美]

(公財)ひろしま文化振興財団はホールの管理運営を行っておらず、主催公演をほぼ実施していない。主となる事業は顕彰と助成であり、この他にけんみん文化祭等の業務を広島県からの受託している。平成16年から県内の文化振興を広域的に支援する事業の一つである文化施設職員等研修事業を受託し、県内のホール活性化・文化振興を目指した活動を実施している。また、これまで県内文化ホールの連携を推進するための助成事業も実施してきた。

今回、2年前に実施した公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業に続き、職員研修やホール連携、アウトリーチの可能性を探ることを目的に邦楽地域活性化事業を実施することとした。一方で、広島県福山市は箏の生産日本一を誇る。福山市では箏曲コンクールや演奏会が定期的に行われているが、福山市以外では邦楽事業の展開があまりみられない。流派や地元愛好家のしがらみ、邦楽では集客が難しいといったイメージが根強く、改めて邦楽を提供しようとする機運はホールには乏しい。福山市以外においても邦楽に親しむ機会の拡充を目指すとともに、広島県における邦楽の可能性を探る機会とした。

地域交流プログラムの実施地としてまず福山市に了解を得られたことで、県東部、県中央部、県西部の3地域での実施を目指し、開館間もない東広島市、定期的に行っているものの邦楽事業は未経験な廿日市市に協力を依頼。いずれも快くお引き受けいただき、3市のご担当者には心よりお礼申し上げます。福山市以外では邦楽のノウハウがない中、コンサートとワークショップどちらを実施するかは大きな課題であった。ワークショップを実施するにあたっては楽器の調達が必要となる。廿日市市では地域に密着した佐伯地区で行うこととなりコンサートを、広島大学が所在する東広島市では大学から箏を借用してのワークショップとなり、地域の特徴に沿った決定となった。コンサートでは、前半はアウトリーチプログラムをアレンジした内容、後半は本格的な演奏といった構成であり初心者から愛好家まで充分満足していただいた。邦楽公演を頻繁に実施している福山市でも好評であったことは、今後邦楽事業を展開する上で大変参考となった。ワークショップを実施した東広島市では、実施が10月であり学校行事と重なり小学生をターゲットとした場合のスケジュール調整の難しさを実感することとなった。

今回、集大成となるガラコンサートを当財団設立40周年記念事業として実施することとし、より多くの方が邦楽に触れる機会となるよう料金を500円と低価格に抑えて実施した。邦楽事業のノウハウが全く無く、際立った邦楽曲や民謡がない土地柄もあり合同演奏を実施することにためらいがあったが、チーフコーディネーター、コーディネーターの皆様にご助言をいただき、瀬戸内海の情景をイメージした曲で新春にふさわしい宮城道雄作曲「春の海」を合同演奏していただくこととした。オープニングにオリジナルの「春の海」、エンディングに地元作曲家による編曲版「春の海」、山田流箏曲、長唄、広島の自然をイメージした新曲と多彩な邦楽の魅力と出会えるプログラム構成でコンサートを実施していただいた。若手演奏家が集結すること、多様な演奏が聴けること、手頃な価格であったことなど、集客に結び付く要素があり、雪が降るあいにくの天候であったが当日券も多数求めていただいた。3組9名の素晴らしい邦楽演奏家が集う機会はなかなかない。邦楽ガラコンサートを実施できるのは、実施県のみである。邦楽の魅力を県民に伝える大変貴重な機会をいただいた。お客様から好評の声は私にとっても今後の業務の大きな励みとなった。人手や物品をはじめ様々なものが不足する当財団で、邦楽地域活性化事業を実施できたのも関係者の皆様、地域創造のスタッフの皆様のお力によるものである。心より感謝申し上げます。

### 1. 事業全体に対する所感

当財団だけでは実施できないことに取組ませていただいた。3組の演奏家が集まりアウトリーチプログラムを作り込む研修会は、当財団の体力的に大変厳しいものであった。しかし、3組が集まるからこそ成果を得られる。この事業でなければ3組の演奏家が1つの学校に同じ日に出向く機会などない。子どもたちにとってかけがえのない機会であったと願っている。また県内ホールとの連携を今後の事業にも活かしていきたい。

### 2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

邦楽器の取り扱いについて経験や知識がなく、演奏家には大変ご迷惑をおかけした。特に箏の返送について、社会的な要因もあるが運送会社と調整が思うようにいかなかった。継続的に邦楽事業を実施するには楽器の取り扱いや運搬が課題である。

### 3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

本来なら当財団で対応しなければいけないところであるが、今回サブコーディネーターとしてご協力いただいた多田彩子さんのお力が大変大きい。昨年実施された熊本県で演奏家として活躍されていたが、今回地元広島県での開催とあってサブコーディネーターとして携わっていただいた。なかなか追いつくことはできないがお姿から学んだことを今後につなげていきたい。

### 4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

全体研修会やガラコンサートの広報を通じて、特に広島市内で活躍する邦楽家や邦楽愛好家との出会いは大変貴重であった。ホール主催のコンサートやワークショップはあまりないが、ギャラリーや店舗といった身近な場所で邦楽の演奏を聴く機会は多数あった。また、小学校・中学校では、邦楽や伝統芸能への関心が高く、邦楽アウトリーチに取り組んでいる学校も見られた。東京オリンピックを契機として伝統文化に注目が集まってはいるが、邦楽へのニーズは潜在的にあると感じた。

## ②地域交流プログラム報告 ①廿日市市

---

### 廿日市市担当コーディネーター

[地域創造プロデューサー 児玉 真]

廿日市は名前に顕れているように物産の交流が盛んな町としての性格を持つ。人の行き来が多様で文化的にも多様なのではないかと思う。また、広域的には、宮島の対岸である宮島口で観光という性格も持つとともに、広島のパッドタウンとしての性格も持つ不思議な魅力のある町である。

今回のアウトリーチでは海岸沿いの歴史を持つ小学校と住宅地の小学校2校を訪れたが、想定したよりは子どもたちの反応の差が大きくなかったという印象。また、コンサートは事業の重複を意識して40分ほど山に入った佐伯地区のさいき文化ホールで行った。そのため、アウトリーチとコンサートの関連性を作ると言うことは出来なかったが、逆に邦楽、特に山田流とは殆ど縁のない地域と言うことで、アウトリーチプログラムをそのまま舞台上に置き換えて(コミュニケーションのとりかたに若干の修正を加えたのみ)コンサートの前半に置く、という手法が有効に活かされたように思う(聴き手が育っていない邦楽ではこのやり方は数年前から試みられてきていて、有効な方法という認識はあったが、さいきでは特に上手くいったような気がする)。

プログラム作りは、リーダー森田博代さんが2年前に会ったときから取り組みたいと言っていた「秋篠寺」をメインに取り上げた。この曲への森田さんの想いが明確であったことで、構成は必然的に決まっていたとも言えるが、秋篠寺を最後に据えるのはこの曲の深く静かなたたずまいとやや大人びた詩(短歌)の世界をどのように伝えるかというのが大きなテーマになった。

広島や宮島の海や森や自然を感じて暮らして居るであろう子どもたちと、こじんまりした奈良の秋篠寺から想像できる自然との関係、そこで感じられる感性を、じっくりと想像力を働かせながら伝え、自身が訪れたように感じ取ってもらえるような構成に出来たのは、やはり演奏者の強い気持ちがあつてのことであろうと思っている。

「秋篠寺」につなげる前のところの作りは比較的難しかったように思うし、これが最善の流れだったかはなんとも言い難いものだけれど、導入の後で提示するキーワードを「箏歌」と「三曲の合奏(多分子どもたちが行っている合奏と邦楽の合奏の方法の違いとその面白さ)」としてプログラムにしていた。「秋篠寺」という曲が、邦楽的な響きと現代風の合奏の音の重なり合いの両方を融合させたような音楽なので、その不思議な響きが呼び覚ます感覚、感情との対比として音楽に入って行ってもらえれば成功だと思っていたのだがどうだったのだろうか。邦楽のプログラムの中では、演奏者の感情が比較的前に出たような流れだったし、それが子供らにも伝わっていたように思う。

コンサートでは、街の中心から離れた住民のコミュニケーションが濃密な地域ということもあり、またさくらびあの担当者が、そのコミュニケーションの中心にいる人を巻き込んでくれたおかげで集客も良く、雰囲気もコミュニケーションが中心のコンサートになった。前半は舞台下でアウトリーチプログラムと似たような構成、後半は舞台上できちんと演奏した。

今回初めてチームを担当して、過去9年間、チーフコーディネーターとして事業全体を見ているのとは違う邦楽アウトリーチプログラムづくりの難しさと楽しさを経験させてもらったが、一方で演奏家のメンタリティや求めるものが他のジャンルの演奏家と大きくは変わらないことを再確認して、今後の邦楽事業を進める上でのヒントももらえたと思う。同時に、邦楽独特の難しさもあり、サブコーディネーターとの役割分担の一つのモデルケースを作れたと考えている。初めてで仕事内容のモデルのないサブを頑張ってくれた、広島出身の箏奏者多田彩子さんにも感謝したい。

## ②地域交流プログラム報告 ①廿日市市

### 廿日市市担当サブコーディネーター

[邦楽演奏家 多田 彩子]

#### 2018年度 邦楽地域活性化事業を振り返って

この度、サブコーディネーターとして森田博代さんのチームを担当いたしました。森田さんのチームは、当初より森田さんのブレることの無いしっかりとした構想が軸にある中ではじまりだったので、比較的進行そのものが決まるのは早かった様に思います。

山田流の“箏歌”を題材にするということで、子供たちがいかに分かりやすく説明するかで悩む中、取り上げる内容が多過ぎたり言葉数が余計に多くなっていってしまったものを、チーム内での幾度にも渡る話し合いや通し練習、中間発表やランスルーを経て、子供たちにもとても分かりやすいアウトリーチに仕上がっていったと思います。

恐らく一般的には、子供たちにとって受け取りにくい題材であったかと思うのですが、森田さんの伝えなかった「箏歌」の美しさや「秋篠寺」の曲の素晴らしさがとても簡潔に、分かりやすく纏められたアウトリーチだったと感じます。

今回、サブコーディネーターとして側にいる中で感じたことは、周りの意見を柔軟に受け入れながらも自身の考えを曲げることのない芯の強さを持った森田さんを中心に、尺八奏者の立場から切り込んだ意見を出す見澤さん、後輩の立場からしっかりとリーダーを支えている山下さんの3名で構成された森田さんチームは、とてもバランスの良いチームだと思いました。

アウトリーチ事業と同時に、全チーム出演のガラコンサートの裏方も担いました。日頃より、諸先生方、諸先輩方の舞台のお手伝いを行なっておりますが、ひとつだけ明確に申し上げられることは、自身も奏者でありながら、また、地元広島の会場に於いて、同世代の奏者のサポートを全面的にするということは、一種の精神修行の時間でもございました。ですが、担当するからには、東京の楽器屋さんの様に完璧で所作の美しい舞台転換を行いたいと考え、努めさせていただきました。

今回、このような貴重な業務に就かせていただけたことに感謝を申し上げます。これから先もアウトリーチを通じて、広島、そして全国各地の子供たちに、より一層邦楽を身近に感じてもらえると嬉しいです。

邦楽部門ではこれまで、サブコーディネーターが同行したことはなく、よって、正しい立ち位置が理解出来ていないまま、自己判断の上で全ての行程に同行いたしました。本年度はじまりの頃には、コーディネーターの皆様方の様に、自身の意見や考えを述べるべきだと考え、何度か発言をしてみました。けれど回数を重ねる内に、サブコーディネーターの在るべき姿とは違っているのではないかと考え、それからはとにかく、裏方に徹する様に意識の方向転換をいたしました。

自身が奏者だからこそ分かる、会場設備の不備等には事前に手を掛けたり、奏者の意図が会場担当者様に伝わっていないと感じれば、後から言葉を足して説明をする等、奏者の考えとの間に相違が起きることのない様努めました。

また、箏は特に準備、片付けに時間の掛かる楽器ですので、奏者が会場到着後スムーズに楽器に触れられる環境を作り、逆に演奏終了後には即発送作業を行える様、公演中の舞台転換の合間に、順次片付け作業を進める等をいたしました。

今回同行したチームが同世代の方だったということもあり、自然と話がしやすく、行程途中で様々な話を聞くこと等も、サブコーディネーターの立場のひとつとして重要なことだった様に思います。

以上の様に、私の考えるサブコーディネーターという立場が正しかったかどうかは分かりません。けれど、奏者の皆様や広島を担当者の方々があつても事業を進めやすい環境を作ることが出来ていたとしたら、嬉しく存じます。



## ②地域交流プログラム報告 ①廿日市市

---

### 廿日市市担当者

[公益財団法人廿日市市芸術文化振興事業団（はつかいち文化ホールさくらびあ） 田雁 尚美]

#### 1. 事業全体に対する所感

単館で取組むにはハードルが高いと思われる邦楽のアウトリーチを、県内のホールで同時期に取り組めた事は、様々な情報を共有でき大変よい経験となった。また、若手実力派の演奏家とご縁ができたことも嬉しく思う。箏においては、西日本と東日本では主流となる流派が異なり、垣根のようなものがあると聞き、その中でどのように展開すればよいのか、コーディネーター、サブコーディネーターの存在は安心感があり、色々話を聞く機会がもてたこともよかった。

アウトリーチにおいては、いわゆる邦楽の大御所的な方ではなく、年齢の近いお姉さん、お兄さんの演奏者であることがよい。また、小学生が集中力を維持できるような構成に工夫をしているところも自信をもって学校に行く事ができた。楽器説明だけでなく、この楽器のどんなところが好きだから演奏している、というぐだりは演奏者への関心を高めることにも繋がったのではないかと思う。演奏者が地域の方でない場合、いかにファンになってもらうか、短い時間でも地域と関わろうとしているかという姿勢を見せる事が重要になってくると感じた。

#### 2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

広報するにあたり、邦楽が身近でないことを痛感した。

買取公演以外でプロの邦楽公演を実施したのが初めてだったので、楽器のこと、邦楽業界のことなど、わからない事ばかりで気を使った。

楽器は自身で管理されたい（他人にさわらせない）演奏者が多い中、どこまで運搬等や設置で触っているのかどうかわかりにくかった。確認しておけばよかったと思う。

#### 3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

今回、他のホールをお借りして公演をすることになったので、そのホールの地域や近隣団体にチラシやポスターなどを持ちまわるなど、周知を通常以上に時間をかけた。また、その地域のキーマンとなる方に協力をしていただいた。

#### 4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

学校でのアウトリーチは、目の前で箏や尺八の演奏を観て、生で音色を聴き、普段の学校授業とは違う経験だったと思う。写真をつかって説明するなど、光景を自由に思い浮かべる工夫が児童の皆さんにも届いていたように思う。また、地域外から（東京から）やってきて、廿日市でアウトリーチを実施するにあたり、演奏者も廿日市の事をリサーチし、学び、アウトリーチの内容に盛り込んでいる姿も届いたことと思う。

#### 5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

邦楽という新しい分野で取り組めた事は大変よい経験となり、演奏者や地域の邦楽演奏者と繋がりもでき良かった。学校において、邦楽は関心が強いように感じたので、プログラムを考えるにあたって、より地域に根付いた話題を盛り込むなど工夫をして継続できれば思う。

公演が10月で、学校や地域の行事の多い時期だったことから、集客の難しさを感じたので、今後は実施の時期も十分に考えていきたいと思う。

今後の展開として、さくらびあでは、音楽家の登録制で「ふれあいコンサート」という無料のロビーコンサートを実施しているが、邦楽演奏家にも積極的に出演機会を作っていきたい。また、公演の際には“邦楽”関係者を意識しつつも、固定観念にとらわれず、異ジャンルの方へも積極的にアプローチしていけばよいと思う。「ちょっと、おもしろそうだから一緒に観てみない？来てみてよ。」と誘い合える関係性を作っていくことも大切だと思う。

## ②地域交流プログラム報告 ①廿日市市

---

### 廿日市市担当演奏家

[代表] 森田 博代

#### 1. プログラムを作り上げる際に大事にしたことについて

プログラムの中心に据えたものは、大好きな曲で思い入れのある「秋篠寺」。この曲を通して伝えたかった、自分の好きなものに会うこと=気づき、またその出会いのすばらしさを伝えることを根幹に、「一番伝えたい事は何か」という自身の中の軸がぶれないように意識した。もう一方で伝えたかった“箏歌”に重きを置くことにも留意し全体の流れを組み立てた。

各曲の核となる要素を取り出し、わかりやすい情景描写などの説明を入れながら進めることで、生徒により伝わるよう工夫した。

#### 2. アウトリーチの中で子どもたちの反応で心に残ったエピソードについて

演奏し始める時の空気感を感じて姿勢を正したこと、聴く姿勢になったことを感じる事ができた。最後に演奏した曲（秋篠寺）は、子どもには難しいテーマかと危惧していたが、最後まで集中力を保っていることが伝わってきた。

準備中に廊下で接した一人の生徒が演奏を聴いていたが、後に先生から、実は普段は教室に入れない子どもだということを知った。ちょっとしたふれあいから「着物の人は何をしにきたのだろうか？」と興味を持って聴きにきてくれたこと、普段は入れない教室に入ってきてくれたことが感慨深かった。

#### 3. 地域と関わったことから見えたもの、感じたことについて

子どもたちの純粋さに加え、自立していて自由に発言できる雰囲気を感じた。取り上げられる機会が少ない和楽器について、先入観のない子どもたちに聴いてもらえたことは良かった。

周辺が海や山などの自然に囲まれていて、選曲（プログラム内容）の方向性としては良かったのではないだろうか。また、山田流が浸透していない地域で、彼らにとっての新しいものを伝えに行くことができたのではないかと思う。教室という小さな空間で向き合うことで、子供たちの反応を受け取りながら行うアウトリーチは、演奏家も育ててもらえる貴重な機会だと実感した。

#### 4. 今回のプログラムを通じてのご自身の変化について

前回（2年前）の参加の経験も活かしつつ、プログラム作りに取り組めたのではないかと思う。今までは山田流・歌物・流派などの枠にどうしても捉われがちだったが、曲としての良さを伝えるためにはそのような枠組みは必要なく、演奏する曲の良さ、箏の音色の素晴らしさを純粋に感じてもらいたいと思うようになった。

子どもたちと対峙でき、和楽器を伝える場としてかけがえのない機会なので、次年度以降につながることを期待し、今後もそこに携わることができればと思う。



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



コンサートの様子



コンサートの様子



コンサートの様子



コンサートの様子



## ②地域交流プログラム報告 ②東広島市

---

### 東広島市担当コーディネーター

[公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 実演芸術振興部企画室長 谷垣内 和子]

#### ◇恵まれた環境

白壁となまこ壁が続く街並みに、赤レンガの煙突がそびえ立つ。日本三大酒処の一つとして知られる東広島市。今回のホームグラウンドは、2016年春にオープンしたばかりの東広島芸術文化ホール“くらら”。大・小のホールをはじめ、会議室・練習室・録音スタジオ、ギャラリーから調理実習室まで揃った地域の文化芸術拠点である。

メンバーは箏の喜羽美帆さんをリーダーに、同じく箏の岡戸朋子さんと笛の小泉なおみさんの女性トリオ。箏の演奏家はほかに三弦と十七弦、時として二十五絃箏や胡弓も扱う。笛では、篠笛だけでなく能管も必修である。

#### ◇初めまして…から始まったチームづくり

最初の驚きは、チームそのものが初顔合わせだったことだ。喜羽さんとの共演はあっても、三人一緒の演奏経験は皆無という。それぞれにキャリアも活動領域も異なる。「初めまして…」から始まるチームづくりは、楽器を絞り込み、作品を探ることからスタートした。もっとも喜羽さんには、密かなねらいと確信があったらしい。子どもたちに胡弓を聴かせたい。小泉さんの作品と一緒に演奏してみたい。この三人なら出来ることがもっと広がるはず。

すでに喜羽さんは、呉市出身の作曲家ミヤケリョウ氏に新作を委嘱していた。出来上がったのが「森羅の瞬き」だった。これを篠笛・二十五絃箏・胡弓で演奏することが決まって、ようやく少し灯りが見えてきた。「選択肢の多さ」は、時として方向性や焦点が曖昧になる危険性がある。

#### ◇チームとしての成長

話し合いを重ねた結果、テーマは「音で見る、音で感じる」に落ち着いた。目に見えるものだけでなく、目に見えないもの（＝気持ちや物語）を、大好きな邦楽器の音を通して、想像したり感じたりする感覚を体験して欲しい。初めて接する子どもたちだからこそ、真っすぐにしっかりと伝えたい。彼女たちの気持ちの一つになった。

アンサンブルとして取り上げる曲は、新作か編曲以外に選択肢はない。胡弓が活躍する宮城道雄の「ワンワンニャオニャオ」を二十五絃箏と胡弓・篠笛に、篠笛・ピアノ・チェロ・コントラバスによる小泉さんの「凜」は篠笛・二十五絃箏・十七弦に編曲。でも、まだ何か足りない。最後に喜羽さんが、二十五絃箏のソロで物語性の濃い「琵琶行」を取り上げる決断をしてから、全体のストーリーが鮮明になった。このように、プログラム完成までに、相当な紆余曲折があった。けれども、明確な目標があったからこそ、揺るぎないチーム力が築き上げられたことも確かである。

#### ◇手応えと反省材料

アウトリーチは市内の3つの小学校で実施した。校風・クラスの雰囲気の違いはあったが、いずれの実践でも、子どもたちの心に強い印象を残した手応えはある。ただ、東広島市は、長年にわたって「和文化教育」を推進していることを後に知った。全校生徒で「春の海」を演奏する学校もあるという。事前にリサーチが出来ていたら、また少し異なるアプローチもあり得たかもしれない。情報収集が十分でなかったことが悔やまれる。

#### ◇曲づくりに挑戦したワークショップ

ワークショップは「くらら」で「さくら」をやってみたら?と題し、箏と篠笛で実施。ホールの愛称と「さくら」の語呂あわせから、オリジナルの曲づくりに取り組んだ。実技体験は「さくらさくら」の冒頭4小節に限定。事前に、「ララシー」に合う旋律パターンをいくつか作っておき、参加者たちが選んだものをつなぎ合わせて曲にする試みだ。

箏爪は親指1本だけ。体験する素材を少なくしたことがポイントである。限られた時間のなかで楽器の特性に触れ、曲づくりと音の響き合いに興味関心を喚起することをねらった。参加者がどのくらいこの意図を理解し、楽しめたか。正直よく分からない。もっとブラッシュアップする必要性を痛感している。けれども、ワークショップといえば、「さくらさくら」を弾くことに終始しがちな状況を変えるアイデアは、不可欠である。その際には、プログラムの着地点のイメージをアーティストだけでなく、参加者、スタッフ全員が共有出来るかどうかがかぎになりそうだ。

#### ◇今後への期待

今回もワークショップの集客は苦労したように見受けている。体験のほかに、アーティストによるミニコンサートも組み込んで、施設を訪れていた方々にも声をかけ、出入り自由の無料鑑賞会に仕立てたものの、あまりはかばかしい成果にはつながらなかった。もう少し情報と対策の共有を図れなかったか。少し心残りである。

その一方で、欲張り過ぎともいえそうなプログラムを構築し、遂行したアーティストたちのパワーには驚嘆するばかりだ。彼女たちの演奏に対する真摯な向き合い方の証だろうと思う。彼女たちならば、この経験をもっと発展させ、広げて行ってくれるに違いない。そんな確信がある。

## ②地域交流プログラム報告 ②東広島市

---

### 東広島市担当者

[東広島市芸術文化ホール指定管理者(東広島芸術文化ホールくらら) 蓮田 竜太郎]

#### 1. 事業全体に対する所感

邦楽という我々もなかなか精通していない分野を提供していただいたことで、音楽観の増幅に繋がったし、今後の事業展開にも十分に生きる事業であった。また、学校へのアウトリーチ活動を行った事で、子どもにとって邦楽器が少しでも身近なものになったのではないかと思う。

#### 2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

①箏=春の海・宮城道雄などといった固定観念が強く、邦楽の先生を招いた課外授業のような想定をされていた学校があり、アウトリーチ終了後の説明をもって初めて学校側と共通認識を持つことが出来た、という事例が発生した。②一行人数が直前まで変動したため、学校側にご無理を申し上げたり、ご迷惑をおかけしたりすることがあった。③ホールプログラムの集客に苦戦した。

#### 3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

①学校側へ受け入れ要請の時点から認識の違いが生まれていたため、事前にある程度どのようなプログラムや内容を想定しているかが伝えられるようにしておきたい。(手法開発より前の段階なので難しいとは思われるが。)②一行人数とその内訳を早い段階で学校に伝えられるように体制を整えていただきたい。昨今の情勢からして、訪問する側の「目的」「人数」「立場」などを事前に明確にしておくことが、学校との交渉を円滑に進めるための必要条件ではないかと感じた。③ワークショップであったことから参加者の幅を狭めざるをえなかったことが足かせとなった。学校や地域センターなどへの広報活動にも力を入れたが、具体的な成果を得るには至らなかった。

#### 4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

アウトリーチにおいて児童が真剣な眼差しで演奏を聴いている姿を目の当たりにし、決して邦楽であるからと言って児童の興味関心が向かない訳ではないということを発見できた。我々ホール職員も邦楽経験者が少ないため、職員のスキルアップにも繋がった。

#### 5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

邦楽分野は今もなお進化を続けている分野であること、決して古典のみではなく時代に適応し続けていることは、邦楽の知られざる大きなアピールポイントであると感じた。このポイントを前面に打ち出して行くことで、より邦楽分野への興味関心を集めることが出来るのではないかと感じたので、そういった視点で自主事業を立案していきたい。

また、邦楽器でのアウトリーチを体験できたことは、これからの音楽普及啓発事業を展開する上での良い材料となった。将来的に洋楽に限定しないアウトリーチ活動を、ホールが主体となって行っていくことも検討していきたい。

## ②地域交流プログラム報告 ②東広島市

### 東広島市担当演奏家

[代表者] 喜羽 美帆

#### 1. プログラムを作り上げる際に大事にしたことについて

「音で見る 音で感じる」をテーマに、目に見える具体的な風景や形だけでなく、目に見えない心の動き、感情、物語の内容といった抽象的なものを、子供たちに音を通じてどう伝えるかを念頭にプログラム作りに取り組んだ。三曲合奏ではなく、二十五絃箏・篠笛・胡弓という珍しい組み合わせでの曲は存在しないため、広島県出身の作曲家に委嘱して、地域の方にも親しんでいただけるようなプログラム作りを目指した。

平成26年度に参加した際はチーム内で意思疎通ができており、この事業でのチームワークの必要性を実感していたため、今回の難しいテーマ・方向性には、話し合いを重ねることができてより良いプログラム、音楽づくりができる共演者が必要だった。その意味ではメンバーにも恵まれ、意見を交換する過程で生まれるものが多くあり、納得のいくプログラムができたと思う。

#### 2. アウトリーチの中で子どもたちの反応で心に残ったエピソードについて

低学年の子供たちもいる小学校もある中で、抽象的な内容も含め、どのように子供たちに伝わるのか心配もあったが、演奏前と終了後では子供たちの目の輝きが増したこと、また歳の差なども関係なく集中力を保ちしっかり聴こうとする姿勢が感じられ、心が動いた、何かを感じてくれたという雰囲気が伝わってきた。学校の雰囲気の良さも相まって非常に演奏しやすい環境で、音楽室内の空間の一体感を味わうことができた。

#### 3. 地域と関わったことから見えたもの、感じたことについて

広島県での実施ということもあり、広島（呉）出身の作曲家に委嘱した作品では、広島の空気感、田舎の森の様子をイメージした作品に仕上げていただき、プログラム作りの中で核となる曲目となった。演奏家側が真剣に向き合っていれば子供たちにも伝わるということを改めて実感した。ワークショップについては、準備段階からホール担当者も交えてもう少し工夫できたのではないかという思いもあるが、親子で参加していただいて子供たちも気軽に楽しめる雰囲気の中で、箏と篠笛の「さくらさくら」の演奏のほか、東広島市ホール担当者の作曲したモチーフを使って、箏と篠笛による創作曲まで合奏と合同発表会までできたことは、ワークショッププログラムとしての充実感を感じることができた。

#### 4. 今回のプログラムを通じてのご自身の変化について

子供に対する音楽の伝え方は、大人に対してよりも難しく苦しい作業でもあったが、この事業に参加することで、自身を改めて見つめ直すきっかけとなり、音楽の方向性、伝えたい音楽を掘り下げる時間にもなった。「人に何かを伝える」ことを通じ、常に自分自身を俯瞰で見つめることやマネジメントしていくことが大事だと再認識した。特に普段の活動としても、多様なジャンルの方とのかかわりが多く、自身の基礎である三曲合奏からジャンルを拡げていきたい思いがあったので、二十五絃箏・十七絃・胡弓・篠笛という組み合わせで満足のいくプログラムが出来て、実りのある貴重な経験となり、今後の音楽活動において指針となる大切な時間で、今回のプログラムに参加したことは一生の財産となった。



[Ⅲ. 平成30年度 事業報告]



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



ワークショップの様子



ワークショップの様子



ワークショップの様子



ワークショップの様子

## ②地域交流プログラム報告 ③福山市

### 福山市担当コーディネーター

[邦楽演奏家、NPO法人日本音楽集団 副代表 米澤 浩]

#### 「歌舞伎の紹介」を軸にして

今年度は福山市でアウトリーチ（以下、OR）とホールプログラム（以下、HP）を担当した箕田弘大さん（リーダー／細棹三味線）、新保有生さん（笛・能管）、都築かとれさん（細棹三味線）3名のチームのコーディネートを担当した。（以下、敬称略）

このチームは構成メンバーの楽器からお判りのように「長唄チーム」で、リーダーの箕田は当初から「歌舞伎の紹介を軸としたOR」を志向し、これを実現するためにこの布陣を敷いて事業に臨んだ。

その『箕田・福山チーム』が本事業を成功させたポイントは3つあった。

第1はORの構成である。彼らが作り上げたORは、歌舞伎十八番の中で最も知られる『勧進帳』をメイン（トリ）に置き、トリに至る過程では「歌舞伎の中でそれぞれの楽器が活躍する色々な場面」を紹介し、限られた時間の中で「鑑賞している子ども達の中に《歌舞伎リテラシー》の基礎作り」をしようとするプログラムだった。

「楽器紹介」は楽器の構造などは最小限にとどめ、色々な場面での「個々の楽器が持つ豊かな表現力」を紹介することで、「日本人が育んで来た感性」をも紹介する一面も併せ持っていた。日本の楽器による《音楽のオノマトペ》を色々紹介していく構成は、鑑賞していた子ども達も楽しみながら「個々の楽器が持つ表現力の豊かさと、それを生み出した日本人の感性にも触れ・感じる」ことが出来る内容だったと思う。

そして第2に、演奏者が自分達の個性を活かしたことだ。『箕田・福山チーム』の強みは、子ども達の三味線指導や合奏指導の経験を豊富に持つ箕田、音楽の教師として5年間教壇に立った経験を持つ新保がいたことで、それぞれが「経験を活かした姿勢と語り口」で子ども達と向き合っていた。演奏の質が重要であることは無論だが、「子ども達と向き合う姿勢や話し（方）も演奏と同じ位重要」という《ORの肝》を見事に押さえていた。

箕田と新保の二人はこの点でも「熟達者」であり、この強みゆえに『箕田・福山チーム』のORは「彼らだからこそそのOR」になっていた。

イラストや写真パネルの活用も親しみやすさを増して良かったが、同じ演奏であってもそれを提示（演奏）する前に、「子ども達に何をどのように語るか？」が重要であることを経験を通じて肌身で知り、身に付けているのだろう。

第3のポイントは『ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ』で発揮した《演奏者としての幅》である。

HPは2部構成のコンサートで、第1部では今回のORで伺えなかった学校の児童生徒さん達も来場予定との情報から「学校で行ったORを再現」し、第2部では「楽器の今の姿（音楽）」を紹介するプログラムで構成した。

その第2部は全曲「現代邦楽」と呼ばれるジャンルから選曲し、三味線・笛の著名演奏家が自らの楽器のために書いた「独奏曲を各1曲」、作曲家が三味線と笛のために作曲した「二重奏を1曲」、そして最後にヴィットーリオ・モンティの『チャールダッシュ』を三味線2丁・笛1管のトリオで演奏するという構成で、現代曲も得意とする彼らならではの構成であった。

この日に『リーデンローズ』にいらしたお客様は、第1部では「三味線・笛が育んで来た楽器のアイデンティティー」、第2部では「個々の楽器の可能性を広げようとしている今の姿」に触れることが出来たに違いない。

### [Ⅲ. 平成30年度 事業報告]

---

「歌舞伎」を軸に置いた彼らのプログラムは、「個々の楽器が持つ表現力や可能性」だけでなく「それを育む感性」までをも紹介するプログラムだった。

末筆にコーディネーターとして、古典の素養を基に次への可能性にチャレンジする『箕田・福山チーム』の面々に、これからの期待も込めて心からエールを送りたい。

## ②地域交流プログラム報告 ③福山市

### 福山市担当者

[公益財団法人ふくやま芸術文化振興財団(ふくやま芸術文化ホール) 藤井 明生]

#### 1. 事業全体に対する所感

邦楽に特化した事業ということで新たな観客層の開拓や、演奏者への演奏の機会の提供という面でも有意義な事業であると考えます。

#### 2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

当ホールが実施しているアウトリーチ事業とは別にアウトリーチ先を確保する必要があり、また年度途中ということもあり選定に苦慮しました。

#### 3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

邦楽について学習する学年や市内小学校の芸術鑑賞等の実施状況を把握するため、市教育委員会の助言を受けました。

#### 4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

アウトリーチに関しては、クラシックに加え邦楽での実施の可能性を大いに感じました。  
コンサートについては、新たな観客の開拓につながると感じました。

#### 5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

当ホールでも邦楽事業をいくつか実施しておりますが、マンネリ化、出演者の高齢化など課題が山積しており、年間を通じて邦楽事業の見直しを検討しているところです。

そうした実態の中で、この度の邦楽活性化事業も新たな切り口として大いに有用であると考えます。



## ②地域交流プログラム報告 ③福山市

---

### 福山市担当演奏

[代表] 箕田 弘大

#### 1. プログラムを作り上げる際に大事にしたことについて

これまで長唄チームの参加がなかった中で、歌舞伎音楽を取り上げることがまず根底にあった。ただし、演奏家の人数の制限がある中で本物をそのまま届けることは無理なので、どれだけ本物に近づけるのか、その後興味を持ってもらえるようなプログラムにできるかを意識した。歌舞伎音楽の中でも最も有名で人気のある「勧進帳」を核とする中で、音楽的に魅せられる部分、音楽的な面白さが詰まっている最後の部分を取り上げたが、子供たちが筋書きなどの「知識的なもの」なのか、あるいは「音楽的な魅力」なのか、どのようなところに興味を持ってくれるのかわからないので、人形パネルを使った劇タッチのあらすじ紹介や、歌詞の貼り出しなどの工夫をすることで、どちらかに偏るのではなく、双方からアプローチでき、子供たちの興味を惹きつけることができたのではないかと思う。

#### 2. アウトリーチの中で子どもたちの反応で心に残ったエピソードについて

大きく分けて二つの表情があったと感じた。一つは演奏中の表情で、緊張感も感じるような真剣さがあったこと。もう一つは、クイズなどの投げかけの時のリラックスした表情で、緊張と緩和のバランスの大切さを感じ、今後のプログラム作りの参考にもなった。給食交流や演奏後の控室では、音楽以外の質問も多く、人として興味を持ってくれることが嬉しく、音楽を通して人を見られているんだなと感じたことから、音楽を聴かせるだけではなく、人と人との交流も感じられるプログラム作りを今後も意識したい。

#### 3. 地域と関わったことから見えたもの、感じたことについて

ホールと密接にプログラム・コンサート作りができた。学校での受け入れていただく態勢が素晴らしく、地元のホールとの連携の良さも感じられた。自分たちには見えない部分、できない部分を大いにサポートしていただき、そうした力が集結した公演期間だったと思う。

#### 4. 今回のプログラムを通じてのご自身の変化について

少人数で歌舞伎音楽を伝えるという、以前から試してみたかったことができたが、今までのやり方を踏襲するのではなく、編成、方法などいろいろな可能性があり、自分たちなりに面白い形を構築できたのではないか。小道具などの工夫も含めて、子供たちに伝える中で大事な手段を発見することができたこと、また今まで何となくやっていたことが、言葉や文章にしてプログラム作りをする中で整理され、様々な要素から取捨選択して作り上げたことで良いプログラムができたことで、自身の今後の活動の引き出しの一つになった。その時に応じてプログラム内容を変えていける柔軟性に加えて、プログラム内容にかかわらず特に音楽からいろいろ感じ取ってもらいたいという思いがさらに強くなり、自分たちにしかできないクオリティを求め続けて「生きた音楽」を伝えていけたらと思う。



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



コンサートの様子



コンサートの様子



コンサートの様子



コンサートの様子



---

## **IV. 平成30年度 事業資料**

## 平成30年度邦楽地域活性化事業 実施要綱

---

### 1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、地域における芸術活動を担う人材の育成及び環境づくり、並びに日本の伝統音楽（以下「邦楽」という。）の継承発展に寄与し、併せて創造性豊かな地域づくりに資することを目的とし、都道府県等との共催により、公共ホール等を拠点とした、邦楽分野の演奏家（以下「演奏家」という。）による地域交流プログラム及び公演等に関する事業を実施する。

### 2 対象団体等

#### (1) 対象団体

対象団体は、都道府県等とする。

都道府県等とは、次の団体をいう。（以下「都道府県等」という。）

- ① 都道府県又は政令指定都市
- ② 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、都道府県又は政令指定都市の設置する公の施設の管理を行う法人その他の団体
- ③ 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設立された、公益財団法人等（②を除く。）のうち、都道府県又は政令指定都市が資本金、基本金その他これらに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの

#### (2) 地域交流プログラム実施団体

- ① 対象団体が、都道府県及び都道府県に係る指定管理者等（上記（1）の②又は③に該当する団体をいう。以下同じ。）の場合

管内の市町村等より地域交流プログラムを実施する団体（以下「実施団体」という。）を選定する（原則として3団体）。

市町村等とは、次の団体をいう。（以下「市町村等」という。）

ア 市区町村（政令指定都市を除く。）

イ 市区町村に係る指定管理者等

なお、対象団体自らが地域交流プログラムを実施することを希望する場合等については、地域創造と協議するものとする。

- ② 対象団体が、政令指定都市及び政令指定都市に係る指定管理者等の場合

対象団体又はその近隣の市区町村（それらに係る指定管理者等を含む）が実施するものとする。

なお、近隣の市区町村が実施する場合の、団体の選定については事前に地域創造と協議するものとする。

### 3 事業内容

#### (1) 研修プログラム

##### ① 全体研修会

対象団体は、実施団体の職員を対象に、邦楽分野による地域交流プログラム及び公演の企画・制作に必要な実践的ノウハウを取得するための研修会を開催する（原則として1回）。

なお、当該研修会は、文化行政担当者や公共ホール職員、教育関係者等に広く公開する内容を含むものとし、邦楽事業に関する情報提供の機会とする。

##### ② 手法開発研修会

対象団体は、地域創造と協力して、対象団体及び実施団体の職員並びに演奏家を対象に、地域交流プログラム等に関する手法開発を目的とする研修会を開催する（5日間の連続した日程で1回）。

また、対象団体は、当該研修会において対象団体が選定した学校でアウトリーチ実地研修を実施する。

(2) 地域交流プログラム

実施団体は、原則として3日間の連続した日程で次の地域交流プログラムを実施する。

また、実施団体は、地域交流プログラムの実施に向けて、演奏家、コーディネーター及び対象団体等による、現地における事業打合せを実施する（原則として1回）。

① アウトリーチプログラム

学校等でのミニコンサート等により、地域との交流を図るプログラム（原則として1団体4回）。

② ホールプログラム

公共ホール等において開催するコンサート又はワークショップ等により、地域との交流を図るプログラム（原則として1団体1回）。

なお、ホールプログラムにおいてコンサートを行う場合は有料公演とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

(3) 総括公演プログラム

対象団体は、総括公演（ガラコンサート）を実施する（原則として1回）。

なお、総括公演は有料公演とし、入場料収入は対象団体に帰属するものとする。

## 4 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、地域創造が負担する。

ただし、下記以外の経費及び対象団体又は実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した超過分については、対象団体又は実施団体の負担とする。

(1) 演奏家に係る経費

事業参加に係る報酬（出演料、謝金等を含む）、現地移動費を除く旅費（地域創造の規定に基づく、以下同じ）、楽器運搬費、損害保険料、総括公演プログラムの合同練習に係る経費（会場費及び演奏指導を行う作編曲者の旅費等）を負担する。

(2) 対象団体が支出する経費

対象団体が支出する、研修プログラム及び総括公演プログラム実施に係る経費並びに地域交流プログラムの実施に係る経費（ホールプログラムに係るものに限る）のうち、別紙対象経費について、450,000円を限度として負担する。

なお、対象団体による演奏家選定に係る経費については、別途負担する。

象団体が支出する経費の対象経費

項目	内容
音楽・文芸費	楽譜・楽器借料、作曲・編曲等謝金、著作権使用料など
舞台・会場費	舞台人件費、照明・音響費、楽器運搬費、会場整理等人件費、会場借上料など
旅費・諸謝金	地域交流プログラム関連旅費、事業打合せ等旅費
印刷製本費	チラシ・ポスター・プログラム・入場券等印刷費
消耗品費	事業に係る消耗品費
その他	その他事業の企画・制作に要する経費（振込手数料、印紙代を含む）



#### [IV. 平成30年度 事業資料]

#### (3) 実施団体等が支出する経費

実施団体が支出する地域交流プログラム実施に係る経費のうち、別紙対象経費について、1実施団体につき50,000円を限度として負担する。

なお、対象団体が都道府県及び都道府県に係る指定管理者等で、対象団体自らが地域交流プログラムを実施することを希望する場合や、政令指定都市及び政令指定都市に係る指定管理者等の場合で、対象団体自らが地域交流プログラムを実施することを希望する場合については、地域創造と協議するものとする。

象団体が支出する経費の対象経費

項目	内容
音楽・文芸費	楽譜・楽器借料、作曲・編曲等謝金、著作権使用料など
舞台・会場費	舞台人件費、照明・音響費、楽器運搬費、会場整理等件費、会場借上料など
旅費交通費	事業打合せ旅費
印刷製本費	チラシ・ポスター・プログラム・入場券等印刷費
消耗品費	地域交流プログラムに係る消耗品費
その他	その他事業の企画・制作に要する経費（振込手数料、印紙代を含む）

## 5 事業実施に対する支援

#### (1) チーフコーディネーターの派遣

地域創造は、主に対象団体に対して、演奏家の選定方法、事業計画の立案及び事業の円滑な運営に関する助言等を行うため、地域の芸術活動に詳しい専門家をチーフコーディネーターとして派遣する。

#### (2) コーディネーターの派遣

地域創造は、主に実施団体に対して、事業担当者のコーディネート能力の向上及び地域交流プログラムのノウハウ蓄積に関する助言を行うとともに、演奏家に対して地域交流プログラム手法について助言を行うため、企画制作の経験が豊富な専門家をコーディネーターとして派遣する。

#### (3) アドバイザーの派遣

地域創造は、必要に応じて、対象団体の制作責任者（ディレクター）、チーフコーディネーター、コーディネーター及び演奏家に対し、企画内容についてより専門的な助言及び情報提供を行うため、企画内容に応じた専門家等をアドバイザーとして派遣する。

#### (4) 講師等の派遣

地域創造は、必要に応じて、研修プログラム実施時に講師等を派遣する。

## 6 提出書類等

#### (1) 事業申込書（別記様式1-1～1-3）

平成30年度に本事業の実施を希望する都道府県等は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、平成29年9月25日（月）までに提出すること。

なお、2（1）②及び③に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること。

#### (2) 実施計画書、事業収支予算内訳（別記様式2-1～2-4）

本事業の実施を希望する都道府県等は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、事業内容決定後

すみやかに提出すること。

地域創造は、提出書類の内容を審査したうえで共催の可否を決定し、申請者に通知するものとする。

- (3) 実績報告書、事業収支実績内訳、負担金請求書（別記様式3-1～3-5、4-1～4-2）

事業終了後30日以内に、別途指示する関係書類を添えて提出すること。

なお、別記様式3-2及び3-3については、公開されることを前提として、プログラムのテーマ、開発された手法など具体的にその成果を記入すること。

- (4) 変更承認申請書（別記様式5-1～5-2）

共催決定通知を受けた後に申込み（申請）内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに変更承認申請書を提出すること。

なお、変更の内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

## 7 その他

- (1) 演奏家の決定

対象団体は、地域創造が選定した候補演奏家から事業に参加する演奏家を決定する（原則として3組、各3名まで）。

- (2) 共催の表示

対象団体及び実施団体は、事業実施会場及び事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。

【表示例】 共催：一般財団法人地域創造、共催：（一財）地域創造

- (3) 損害賠償の免責

事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

- (4) 関係書類の提出

地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、対象団体の決定又は負担金の支払い等の審査並びに事業報告書の作成に当たって、必要な書類の提出を求めることができる。

- (5) その他

事務手続き及びスケジュール等について必要がある場合は別途定める。

また、事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と対象団体が協議して決定する。

---

## 平成30年度 邦楽地域活性化事業 報告書

発行：一般財団法人地域創造

〒107-0052

東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階

TEL：03-5573-4078

FAX：03-5573-4060

URL：<http://www.jafra.or.jp/>

発行日：平成31年3月

---

